

建築士

おおた

秋季号



Ⓐ 社団法人 大分県建築士会

2005 NO 94

CONTENTS

1. ニュース採録・ニュース再録	
2. 特集 第48回 建築士会 全国大会報告	
I 第48回全国大会に参加して	〈臼杵支部〉 佐々木昭正
II 愛知大会と愛地球博と城めぐり	〈日田支部〉 日高 淳一
舌検隊 番外編 名古屋編	〈大分支部〉 宮崎 敏信
6. 特集「パッション in 沖縄」 珍・紀行	〈宇佐支部〉 渡辺 賢一
8. 支部長就任あいさつ	〈中津支部〉 椛田 康男
8. 情報コーナー こんなんがあるぞ	〈津久見支部〉 竹田 光徳
9. 連載「福祉と住宅改修」 NO.3	〈津久見支部〉 大村 正壽、金只 昌平
10. 個人的図書紹介 Vol.9	〈大分支部〉 笠木 忠昭
14. MY WORK	〈日田支部〉 〈津久見支部〉 〈三重支部〉 〈佐伯支部〉
16. 会員紹介	〈三重支部〉 〈別府支部〉 〈臼杵支部〉 〈事務局〉
18. シリーズ 登録文化財NO.15 旧耶馬溪鉄道 平田駅ホーム	〈中津支部〉 山村 増治
19. インフォメーション	
～ 津久見支部 ～	竹田 光徳
～ 大分支部 ～	飯倉 尚之
～ 三重支部 ～	後藤 康仁
～ 中津支部 ～	椛田 康男
～ 日田支部 ～	吉田 博嗣
～ 臼杵支部 ～	赤嶺 竜一
28. 投稿記事 県立高校大規模改修事始め	〈大分支部〉 野上 和彦
32. 行政だより	
35. 新会員紹介	事務局
36. 平成17年度通常総会報告	事務局
38. 平成17年度新役員名簿	事務局
39. 事務局だより	事務局
41. 編集後記	



大分市立大在酉小学校

- ・平成17年4月 開校
 - ・子どもの支援、自然環境、地域との交流、バリアフリー等を軸に設計されています。
- (詳細はインフォメーションにて)

ニュース探録 ニュース再録

■ 歌人“白楊”の生家記念館を緒方町が修復

緒方町は、町内徳田に残る歌人徳田白楊（1911－1933）の生家を修復再生し、記念館として整備することを決めた。3月中の完成を予定している。
(大分合同新聞 05 1/9)

■ 郷愁誘う絵本美術館「昭和の町」の新名所に

昭和30年代のレトロな商店街の再現を進める豊後高田市の「昭和の町」の一角に、絵本原画の美術館が完成した。1984年に79歳で亡くなるまで一貫して無垢な子どもの姿を描き続けた長崎県平戸市出身の画家、黒崎義介さんの作品を展示する。2月1日開館予定で“昭和の記憶”を呼び覚ます新名所となりそうだ。
(西日本新聞 05 1/11)

■ 公共工事の業者「成績表」を統一 悪質工事の排除狙う

国土交通省は05年度、公共工事を受注する建設業者の技術力や施工実績を評価する全国共通の指針を作り、年間24万件ある国と地方の発注工事について、業者名や案件ごとの「成績情報」をデータベースにする。国と自治体が互いに利用できる仕組みとする。
(朝日新聞 05 1/23)

■ 湯煙保全へ弾み 別府市が「景観行政団体」に

別府市は、県の同意を得て、景観法（昨年12月施行）で定める「景観行政団体」になった。これより市は、湯煙などの自然景観の妨げになる開発や建築の規制を、法に基づいて命令できるようになる。
(大分合同新聞 05 1/27)

■ NY近代美術館を設計 P・ジョンソン氏が死去

斬新な設計で二十世紀を代表する米建築家として知られたフィリップ・ジョンソン氏が25日、米コネティカット州ニューカナン邸の自宅で死去した。98歳。
(西日本新聞 05 1/28)

■ 福祉の心持つ建築科生徒

住環境コーディネーター14人が見事に合格

日田林工高校建築科の14人が、本年度の福祉住環境コーディネーター（2、3級）に合格した。うち4人が、介護保険制度で関係書類を作成することのできる2級をクリアし、注目を集めている。
(大分合同新聞 05 1/30)

■ 別府市 旧浜田温泉復元が起工

7月完成、8月開館を目指す

別府市亀川浜田町にあった旧市営浜田温泉の建物の復元起工式が2日、現地で行われた。市は当初、取り壊して駐車場にする予定だったが、市民の保存運動と6500万円の寄付により、一転して温泉文化財として復元されることになった。
(大分合同新聞 05 2/3)

■ レトロ外観残したい“別府の顔”老朽化で改修必要に

80年以上の歴史をもつ別府市駅前町の市有区営温泉「駅前高等温泉」が、老朽化で本格的な改修を迫られている。しかし、改修には多額な費用が必要なため、同温泉を運営する同町自治会の伊達太助会長（84）は「レトロな外観を残したい。市民に『別府の文化遺産を残す

かどうか』の問題として考えてもらえれば」と、支援の広がりを期待している。
(西日本新聞 05 2/23)

■ 大分の小中校 校舎など耐震化率50%

44棟はまだ診断もされず

大分市内の小中校の校舎や体育館のうち、国の耐震基準を満たしている施設が、今年度末時点で全体のほぼ半分にとどまっていることがわかった。
(読売新聞 05 3/17)

■ 福岡・佐賀 震度6弱 M7、震源は福岡県西方沖

20日午前10時53分ごろ、九州北部で強い地震があり、福岡県と佐賀県南部で震度6弱、長崎県壱岐で震度5強を記録した。震源地は福岡市の北西約40^{キロ}の玄界灘で震源の深さは九^{キロ}。地震の規模はマグニチュード（M）7.0と推定される。
(西日本新聞 05 3/21)

■ 丹下健三さん死去 戦後を代表する建築家

世界的な建築家で、東京五輪や大阪万博など戦後日本の国家的イベントの基幹施設を手がけた文化勲章受章者、丹下健三さんが22日午前2時8分、心不全のため東京都港区の自邸で死去した。91歳だった。
(朝日新聞 05 3/23)

■ 突った保存活動 豊後森機関庫後世に

玖珠町が、JR豊後森構内（同町帆足）に残る九州唯一の鉄道遺産「豊後森機関庫」を買い取る方針を固めたことが23日、分かった。建物を所有するJR九州（福岡市）との交渉が大詰めを迎え、売買面積や金額面で折り合いがついたもよう。
(大分合同新聞 05 3/24)

■ 愛知万博開幕 自然の叡智テーマに121カ国参加

日本では35年ぶりの本格的な万博となる2005年日本国際博覧会（愛称＝愛・地球博、略称＝愛知万博）が25日午前、愛知県の名古屋東部丘陵で幕を開けた。
(毎日新聞 05 3/25)

■ スマトラ沖M8.7 死者2000人の情報

インドネシアのスマトラ島沖で28日午後11時過ぎ（日本時間29日午前1時過ぎ）、マグニチュード（M）8.7の大きな地震があった。昨年末のスマトラ沖大地震（M9.0）と連動した地震とみられる。
(朝日新聞 05 3/29)

■ 国内最古の木造アーケード NPOが修復、保存へ

温泉文化の保存に取り組む特定非営利活動法人（NPO法人）「別府八湯トラスト」（菅健一理事長）は、別府市元町の商店街「竹瓦小路」に架かり、日本で最も古いとされる木造アーケードの修復保存に乗り出す。
(西日本新聞 05 4/3)

■ 現代住宅建築 伝統美生かす 清家清氏 死去

日本の伝統美を現代住宅に生かし、戦後建築に影響を与えた建築家で、東京芸大と東京工大名誉教授の清家清氏が8日午前10時42分、肺炎のため東京都大田区の病院で死去した。86歳だった。
(日本経済新聞 05 4/10)

第48回 建築士会 全国大会

報告 I

第48回 全国大会に参加して

白杵支部 佐々木昭正

公式マスコットキャラクター



6月11日9時 大分空港に集合して、快晴の天気の中、名古屋国際空港に降り立った。新しく出来た空港は、近代設備を完備した立派なものである。市内直行の快速特急も快適なもので約45分。

会場は、熱田神宮近くの名古屋国際会議場であった。日本全国から志を同じくする者達が一団に会し、お互いのポリシーを確かめ合う壮大なイベントである。公表、3千5百人とか言っておりましたが、実数は半分位なものだろうか。それにしても盛大な会議である。就もそれを口実にした観光旅行もあるのだが……。しかし参加する事によって、時代の流れや現実の方向性等が感じ取れる事には大きな意義があると思うのです。今回のテーマは「あいちで紡ぐ技と知恵」とし、副題が(循環型社会における建築士の役割)を掲げて、今後の士会活動の方向性を示唆するものであった。次回は栃木大会、宇都宮である。1人でも多くの若者の参加を期待したいものである。



今の時代は、世を上げて地方の個性が問われておりますが、それとて他地区の活動を見て、話を聞いて、始めて我が町の良さが見直されると言うもので、我田引水、井の中の蛙であってはならないのである。その為にも此の種の大会にはぜひ参加する事を勧めたい。又これ等を利用しての親睦の為の研修旅行であっても

良いのではないだろうか。現に中津支部や日田支部は毎年の様に行っている様である。毎日が仕事に追われ忙しいのも、不況の時代の厳しさも皆んな同じです。要はその気になるかならないかだけです。考えて見ると建築の仕事とは夢を売る商売です。お客様にロマンを提供する仕事です。先ず己を高めて知識を豊かにする事がお客様に満足感を与え、地域社会を豊かにする事だと思います。いつの時代も現実には厳しく過酷なものです。旅は夢を与えてくれます。旅で見た夢を実現させる努力が自分の為にも地域の為にも大きな活力となっていくのではないだろうか？

今回で私の全国大会参加も最後になると思いますが、若い人々は積極的に参加して、建築士としての誇りと熱情と元気を頂いてほしいものです。

今回の最大の目的は《竹と建築》愛知博の日本館の建物の見学である。



大分大学の井上先生と、大分の後藤さんの竹コネクターが、開発間もないにもかかわらず、日本を代表するイベントで採用された事は実に意義深い事です。日本のエコ建築の仕掛け人としての面目躍如と言ったところです。竹のコネクターにより束ね柱・組柱等今後の建築の在り方に1つの方向性を示したものと言えよう。

この様に、時代の流れや時の風を感じる事こそ、今の厳しい時代を生き抜く為の知恵となるのではないだろうか……。全国から集まっている若者達を見て、つくづくそう思った。時の風を読み、流れを知ってこそ私共の地域の個性も磨かれるものと信じております。皆様の積極的な活動を期待して、筆を置きます。

第48回 建築士会 全国大会

報告Ⅱ

愛知大会と愛地球博と城めぐり

日田支部 日高 淳一

今年、日田支部から養父、武内、後藤、と私の4名の参加、2泊3日のフリープランで行く。

6月10日午前10時発「福岡空港」より「中部国際空港」セントレアに到着。早々に大会会場の「名古屋国際会議場」へ向かう。会場で受付を済ませると、ちょうど岩瀬会長達一行に会う。午後2時ころ式典が始まり、今年「別府支部」の幸勝美さんが表彰を受ける。式典終了後、会場中庭で写真を撮る。



この後、会場近くの「熱田神宮」に歩いて行くことになるが、けっこう長い道のりとなった。広い静かな境内は、いつか「伊勢神宮」に行ったときの事を思い出しながら参拝する。

ホテルに着くと、大分支部の人と一緒にいる。ホテルの人に、食事のおいしそうなお店を聞く。名古屋名物の「味噌カツ」を食べようと思うが、結局「居酒屋」に行き飲むことにする。

2日目は、9時にホテルを出発し、「愛地球博」の長久手会場へ向かう。途中「藤が丘」駅より「リニモ」に乗るのに45分も掛かり、ようやく会場に着くと、そこでもまた1時間も掛かって、中に入ることが出来た。会場内の広いホールは、多くの人でいっぱい。空いたテーブルを、ようやく探すことが出来、ビールを飲む。どこからでも会場をみわたせる、「空中回廊」グローバル・ループを通り、パビリオンを目指す。上



空を、気持ちよさそうに走るゴンドラは、乗るのに90分待ち。初めに入った「ユネスコ館」、そこで養父さん撮る。入り

たいと思うパビリオンは、何処も長い待ち時間なので、武内君の提案で「となりのトトロ」の「サツキとメイ

の家」に行くことにした。途中、日本庭園や茶室を見ながらのんびりと行く。会場の中心部にある「日本館」は、入るのに130分待ち長蛇の列で当然中には入れない。途中、人の少ない「アフリカ共同館」に入り、そこでカレーを食べる。混まないために、早目に帰途に着く。夕食はホテルの近くの「居酒屋」で、今日も飲む。

最終日、昨日とは一変して大変よい天候となる。名古屋城博、「金シャチとご対面」に行く。

城内の広場では、朝から暑い中大道芸でにぎわっていた。金シャチを、直接触ることが出来る入り口には、長い列で120分待ちとの事。当然素通りの列に並び、金シャチを見上げる。天守閣に登った後は、城内の食堂で、名古屋名物の「きしめん」食べる。この後は名古屋駅より、名鉄犬山線で「犬山城」へ行く。以前から一度は行って見たい城で、木曾川を背に小高い山の上にそそり立っていた。犬山城は、別名「白帝城」とも言われ、日本最古の天守閣で国宝に指定されている。天守閣に登ると、ボランティアガイドのおじさんがいて、色々説明してくれた。「あれが小牧城で、向こうに見えるのが岐阜城。」戦国時代、豊臣秀吉



が大阪より大軍を率いてこの城に入り、小牧城に陣を置いていた徳川家康と戦ったとのこと。早々に、城を出ると帰途に着く。早めに「中部国際空港」に着いたので、お土産を買い終わると、レストランでビールを飲む。歩くことと、飲むことの多い旅でした。



第48回 建築士会

全国大会報告

舌検隊 番外編

名古屋編

大分支部 宮崎 敏信

6月10日～11日、名古屋で第48回建築士会全国大会が開催され、4年連続で参加し、楽しく“舌検”もしてきた。例年は10月頃だが、今回は“愛・地球博”のからみで6月開催となった。大会当日は、天気だったが、肝心の地球博は雨にたたられた。

10日朝7時00分に自宅を出発し、8時30分に空港に着く。名鉄の中井さんより航空券を受領する。

地球博のせいで、空路関係も混んでおり、当初は大分空港発着だったが、予約が取れない？それで福岡発となる。この時期だからしょうがないとあきらめていたが、出発5日前、大分発着でOKとなりホッとする。空港待ち合い室で志賀、佐々木氏ら例年参加の顔なじみばかりで心強い。70分のフライトで新装成った中部国際空港着。海上空港で広々としている。

今年、移動が各自となっており、名鉄常滑線で金山に向かう。特急は別料金が必要となっており、順番に自動販売機で買うが、指定座席の車両が離れ離れになってしまい、下車に混乱が起きた。白杵のSさんが金山駅で下車せず、数分待ったが見当たらず、「名古屋まで行ってしまったのだろう」と思い、しかたなく会場の国際会議場に向かう。時間があり河川沿いをゆっくり歩いて行く。途中で昼食を取ろうと思っていたが、会場まで見当たらなかった。国際会議場で食事をしようと7階のレストランに行くが、“超満員”で大勢の客が待っておりあきらめて近くの中央市場の食堂へタクシーで行く。“焼き魚定食”とする。味はまあまあであった。腹ごしらえをし、歩いて会議場へ。



大会式典まで時間あり、屋台村を見学する。CPD単位が3ブースで1点になり数カ所“はしご”する。15分程で結局7点稼ぐことが出来た。大会参加が4点なので久しぶりに大量得点出来た。

大会式典は14:30からあるが、2階席でステージから遠く、眠くなる。来年は栃木県で開催される。(大会詳細は「建築士」参照)

式典が終了し、地下鉄で栄に向かう。10分程で着く。歩いて7～8分で「チサンホテル名古屋栄」着。

デラックスホテルが増える中、ちょっと狭く、古いホテルだが、やむを得ない。大急ぎでシャワーを浴びて、再び地下鉄で金山駅に向かう。今夜の会場場所が駅前だ。大会会場に行く前確認しておいたのでスムーズに着くことが出来た。金曜日で満員らしい。6時からの開会だったが、岩瀬会長ら主要メンバーがなかなか来ず、待ちかねてビールを飲み始める。金山駅に着いているが店の位置が分からないと携帯に入る。名古屋在住の幹事が説明するが要領を得ず、迎えに行く。かれこれ30分も待って、やっと揃う。幹事が時間を30分延長してくれるよう店の者に頼んだが、「8時から予約の客がいるのでダメ由」。あわてて飲むが落ち着かない。客で満員となり、狭く、つまみも落ち着いて摘まめない。





昨年の全国大会で大阪で飲んだ同級生メンバーなので気が合い、楽しいムードとなる。各自が持参した焼酎を披露し飲み比べる。“飲み放題”なので店も大目に見る。

“居酒屋つまみ”だが、味はいまいちだった。友人持参の焼酎“原酒”を頂く。これも持参の名水で作った氷で割って飲む。高級焼酎で酔い加減も最高だ。

さすがに美味しく大満足した。

大いに盛り上がり楽しく語っていたら今年も“別府組”から連絡があり飛び入り合流することとなった。

1次会の会場は時間切れとなり、追い出され駅前で会うことになる。幹事が雲隠れし携帯で探す。幸い近くのスナックにおり、大挙押しかける。

ここでも焼酎を飲む。別府組のS氏が我々の同級生にソックリで大騒ぎとなる。

話は弾み2時間近くしてお開き。別府組共別れ、タクシーで名古屋一番の繁華街“栄”に行く。スナックに寄り久しぶりにカラオケを楽しむ。美人のママさんが手拍子を打ってくれる。

相当に飲んだが、最後の仕上げに名古屋名物「味噌煮込みうどん」を食べに行く。2500円と高かったが、高いだけ味は最高であった。



ホテルに帰ろうとしたが、繁華街のど真ん中で方角も判らず、探し回るが、怪しげな女性や客引きのお兄さんがからんでくるので、しかたなくタクシーで帰る。

11日、朝から雨だった。二日酔い気味で和食にしたかったが、ホットドッグの朝食しかなく半分残す。

名古屋名鉄バスセンターよりシャトルバスで万博会場へ。案外スムーズに着く。東ゲートに大勢の客が並んでいる。9時開門。ドットと入場する。相当歩いてやっと日本館に到着。大分大学の井上正文先生が竹コネクターについて説明された。“長久手日本館”は是非とも見ようと思っていたが、待ち時間が120分となっておりガックリ来る。土曜日で仕方がないと並ぶ。2時間を覚悟していたが、案外早く入場口に近づき1時間で入場出来た。昭和の60年間の生活と自然のつながりの変化が展示されていた“150秒のタイムカプセル”や“360度地球に包まれて”の球体内部壁がすべてスクリーンとなっており迫力ある映像が写される。



昼食時となりレストラン街へ行くが、すごい人出でウンザリ。トイレも順番待ちだ。カレーが1000円。うどん等すべて1000円以上だ。

志賀、佐々木さんとやっと席を確保しビールを飲みながら一息つく。昼食後、インド館を見て退場した。見たいと思っていたパピリオンは何処も数時間待ちの状況で見れずじまいだ。会場が広大で疲れてしまった。昨夜の飲酒の疲れも重なってグッタリなって帰県した。来年も栃木県宇都宮市で開催されるが参加したい。

(大分県企業局工務課勤務)



特集

パッション in 沖縄

珍・紀行

(寄稿?) 沈酔香?…失礼!

平成17年7月晴れた日
宇佐支部 渡辺 賢一

■懇親会余興



原稿を書くにあたり、今あらためて「何の目的で沖縄にいったんだっただか？」考えてみたら、答えはそう「マツケンサンバII」ならぬ「関アジ・サ～バII」のお披露目であった。こいつを無事に収めることがこのたびの私のミッションである。1/29の青年部長会議に何も考えず無防備に出かけたのが運のツキとなった。「サマーセミナーの担当がパッションの出し物当番だつて」忘れちゃったわいな。支部のみんなにもそっぽを向かれ、とほほほ。年度末のいっち番忙しいときだったから、会社には直前まで内緒にしておいた。踊りで使うボンボンや金びかのレイの存在が事態を複雑にしそうだったので早々にダンボールにしまいこんだ。

3月の18(金)～20(日)の3日間の旅は順調に・・・いや、しょっぱなから飛行機がゆれて吐きそうになるわ、上空待機でおくれるわ・・・と波乱の幕開けであった。

「関アジ・サ～バII」

さておき、渡航したメンバー全員によるビッグステージとなった「関アジ・サ～バII」！出来映えの云々ではなく、なんと史上初のアンコールまでできたのである！他県の、今後の大分県を見る目が随分変わると感じた夜だった。宮崎のサル踊りもなんのその！である。だから私の周りの人たちはあの大舞台での発表における創作～演技まで関わる事ができて幸せだったと思う。・・・んな訳はない。

ともあれ、・・・それは無事に終了した、と思う。それでいいのだ。そのアト、泡盛とブタの丸ごと香草焼きに舌鼓をうち、いい気分で暮れゆく夜空を見上げれば、となりでシーサーが月夜に向かって吼えていた。そのシーサー、なぜか腰を押さえながら芝生に寝っころがっていた・・・おや、誰だ?(笑)

■替え歌歌詞 (作詞 渡辺 賢一)

サバ	眠り	踊ろ	ああ	オレ	胸	波	心	熱	光	さ	あ	ア	さ	関
バ	さ	う	あ	レ	に	も	ゆ	い	る	ば	ば	ジ	ば	ア
ア	え	セ	恋	オ	あ	歌	く	風	汗	け	も	も	け	ジ
ジ	忘	ニ	せ	レ	ふ	う	ま	に	が	も	つ	サ	も	・
サ	れ	ヨ	よ	オ	れ	よ	で	体	は	浮	と	バ	も	サ
バ	て	ア	ア	レ	関	関	踊	あ	じ	か	と	バ	も	バ
サ	踊	ミ	ミ	関	ア	ア	れ	ず	け	れ	ぶ	バ	も	バ
バ	り	ゴ	ゴ	ア	ジ	ジ	ば	け	さ	開	じ	バ	も	バ
オ	さ	タ	タ	ジ	・	・	は	あ	じ	け	ま	バ	も	バ
レ!	え	タ	タ	サ	サ	サ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	忘	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	れ	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	じ	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ま	バ	も	バ
	て	タ	タ	バ	バ	バ	あ	あ	も	サ	ん	バ	も	

んぷら」って看板。晩飯のヤスコの店（※後で登場）に向かうタクシーの中で運ちゃんに「特別なてんぷらか！」と詰め寄ると「い、いいえ。おやつやおかずとして食べている塩味のついたいたってシンプルなてんぷらで・・・」「ええい、もうよいわ！」・・・などというやり取りはなかったにしろ、地元の野菜や白身魚のフライであると聞いて気になりつつ最後まで口にするのできなかった「ああ、てんぷら」これはもう、「I'LL BE BACK」でキメるしかない。

ヤスコの店

別名サム「ズ バイ ザ シー いえ、「サム」ズ・・・」がホントの名前。店内ではそれはそれはたくさん10代のウエイトレスさんが注文を取っていた。メニューを置いてくれたのはそんなピチピチ（死語？）の1人。「ご注文がお決まりになりましたら、お呼びください」「はいは〜い」って鼻の下のぼしてね、ルンルン。しばらくして「お飲み物はいかがいたしますか？」と私たちのテーブルにも（当然のことながら）オーダーをとりにきた。・・・が、私のヨコに立っていたのは「ヤスコ」であった。彼女はどうも鼻先にみても60代後半。「あれ？このヒト外人さん相手じゃないのぉ？」たしかにヤスコさん、英語ペラペラで外国人が入ってくると最初にそちらへス〜と行くのに。どうしてか、こちらがいくら若いコを呼び止めてもオーダー取りに来るのはヤスコ。「どうみても俺たち国産なんにい〜」。お料理は味もルックスもボリュームもサイコー。そうだ！サイコーだったよ、ヤスコ！What A Fantastic Night!

※独り言だと判断してもらっていい。

あの場にはないとこのライブ感は伝わらないわ。

城

もちろん遊んでばかりいたわけじゃない。「城」と書いて「ぐすく」と読む。第三分科会「世界遺産にふれる」は2000年に登録された勝連城跡を訪問するコース、これに参加させていただいた。前日青年部の5人でレンタカーを借りて訪れた中城（なかぐすく）城跡とは因果関係にあり、非常に面白かった。15世紀半ば、首里城を中心とする琉球王国の王権が安定してゆく過程に、この2城は深く関わっている。勝連城は、国王に最後まで抵抗した有力按司、阿麻和利（あまわり）の居城である。王権の奪取をめざした阿麻和利が、1458年に国王の重臣で中城城に居城した護佐丸を滅ぼし、首里城を攻めたが大敗して滅びている。・・・このように書くと阿麻和利という人物は野心家に映る

が地元の民にはずいぶん慕われていたようである。



エンディング

他にも、夕食後にチャールズ・ロック通りのライブハウスでバンドステージを楽しみ（いやあれは外国女のロデオショーだったか？）、3日目のオプションツアーでは美ら海水族館で人口尾びれをつけて演技を続けるイルカの「フジ」に思わず手を振ったりした。学生時代に、そして童心にかえった気がした。

沖縄 琉球

住宅のほとんどがRC造で屋上には早魃に備えて貯水タンクがあり、たいていの固有名詞はその方言や呼び名がそのまま定着しているケース（「火の神」が「ヒヌカン」であり「拝み不足」を「ウガンブスク」と発音するように）が多い。

～島人 海人～同じ九州にありながら、私たちの住む大分県とは違った歴史がその文化を形成している。ちかごろでは沖縄人のミュージックシーンでの活躍は目覚しく、きっとそれはあのユニークな文明が彼らを素敵なチャレンジャーへとかきたてているのだろう。いつか時間をつくって、どっぷりと浸かってみていい気がする。

こんな楽しい旅行は

いえ、こんな勉強になる研修会は是非みなさんも参加されるとよい。ん〜、間違いはない。

中津支部長 就任あいさつ



建築士会中津支部 支部長 梶田 康男

一昨年より、NPOを設立し、街なみ活動を会員の皆さんの協力により、活発に行ってまいりました。今まで個々の建物を対象として勉強し、設計、施工等してきましたが、活動を通じて町全体、社会の中の建物がどうあるべきかを考える様になりました。今、中津市の「まちづくり」に、技術者集団である士会員の能力や経験が必要とされています。今年も金谷、諸町の街なみ景観保全事業、土塀の復旧、中津市全体の「まちづくり」の活動が計画されています。我々の活動が、住みやすく、訪れて良かったと思えるまちを造り、後世に残すことのたすけになればと考えています。是非多くの方の参加と協力をお願いいたします。又、活動の道筋をつけた是本前支部長の御苦勞に感謝し、士会活動に努力することを誓いまして、私の支部長就任挨拶とさせていただきます。



明治30年代の西洋館
中津宣教師館

情報 コーナー

こんなんが
あるぞ

「第23回 津久見市ふるさと振興祭」

津久見支部 竹田 光徳

日時：平成17年10月29日（土）30日（日）の予定で、最終決定は8月下旬の会議で決定しますが、変更になれば報道紙で確認してください。

場所：港中央公園（つくみん公園）



地元の特産品が所狭しと並べられ、多くの人出でにぎわうこの振興祭も今年で23回を数え、我が津久見支部も専用コーナーにおいて21回目の参加となります。



子供たちに大人気の会員手作りの「ホーパークラフト」一日中長蛇の列ができます。一度足を運んでください！

**** 津久見支部 正会員 ****

福祉住環境コーディネーター 大村 正壽
金只 昌平

先日、津久見市の高齢者総合福祉施設（特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、通所介護）を見学する機会があった。その施設のパフレットに「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）……介護老人福祉施設とは、老人福祉法に規定されている特別養護老人ホームのことです。介護保険制度における要介護認定で1～5の認定を受けている方に対して、施設サービス計画に基づいて、①入浴・排泄・食事などの介護といった日常生活上での世話 ②機能訓練 ③健康管理 ④療養上のお世話などを行うことを目的とした施設です。

入居される対象者の方々は、身体上・精神上著しい障害があるため常時介護を必要とし、環境的な要因を含め在宅で介護をうけることが困難な要介護者です。

基本的に施設では、可能な限り在宅への復帰を念頭に介護サービスを提供しており、在宅での日常生活が可能になったら、本人や家族の希望、退居後の環境などを踏まえて、円滑な退居のための援助を行わなくてはなりません。（以下省略）（傍点筆者）とある。

退居後の環境の1つに住宅改修が含まれるだろう。

また、施設の方のお話によると、この特別養護老人ホームは70床で入居待ちが約170人（多くは他施設にも申込んでいる）で、入居者の約2割の方が、年間でお亡くなりになるという。単純に計算すると10年以上入居を待つことになる。他施設に入居するにしても、申込後すぐに入れそうにないと想像できる。在宅介護をせざるを得ない状況も相当あると思われる。本人、家族のために「住宅改修」により自立・回復、介護者の負担の軽減に大きく寄与すると思われる。

次に、介護保険制度の「要介護度区分」と住宅改修の関係について大まかに考えてみたい。

（「福祉・住環境用語辞典ハンドブック」保育社）によると……『要介護区分』介護保険制度において、給付区分を決定するための基準で、次に示す5つの要介護状態と1つの要支援状態の6つに区分されている。浴槽の出入りなどに一部介助が必要な場合を要支援、排泄や入浴などに一部介助が必要な場合を要介護

1、一人で立ち上がれないことが多い場合を要介護2、立ち上がりや歩行が一人でできない場合を要介護3、排泄や衣服脱着などに全介助が必要な場合を要介護4、生活全般に全介助が必要な場合を要介護5という。以上

……実際に「要介護認定」する場合は詳細に検討し、「主治医の意見書」等が必要である……

以上から住宅改修を少し乱暴に分けると

要支援～要介護2…「手すり」で日常の行動が楽になると思われる。

要介護3～要介護5…段差解消、トイレ、浴室の改修から車イス、段差解消機、階段昇降機、リフト（固定式、据置式、天井走行式）、ホームエレベーター等と住宅改修が大掛かりとなることが多く、高額になる。

住宅改修の規模が大きくなれば、本人、家族、福祉・医療関係者、設計者や施工者と円滑なコミュニケーションが、より必要となるのは当然であるが、現実はそのまで行ってないことが多いのではないかと思われる。利用者のための「チームづくり」が早急に望まれる。

わが国における高齢者人口の増加は著しく、1970（昭和45）年には総人口に占める65歳以上（高齢者）は7%を越え、高齢化社会となり、1994（平成6）年には14%を越え、高齢社会となった。今後、2008（平成20）年ごろに21%と推測されると言われている。

ますます、住宅改修の重要性が増してくるのは確実であろう、建築士は建築の専門家として社会から期待され責任も大きいと思う。建築士は介護支援専門員（ケアマネージャー）、福祉・医療関係者等と勉強会やコミュニケーションを深めることが必要ではないだろうか。

各支部は地域の福祉、医療とのつながりを深めていき、関係者が気軽に相談ができる体制作りも考える必要があると思う。

福祉・住環境の分野の拡大に伴い、設計、監理の依頼や相談を受けた時に費用、内容を適正に示す「基準」が望まれるのではないか。

計画を打ち出しました。これに対して「由布院の自然を守る会」は次のような対応をしたのです。

「そして、この問題に関して同会（由布院の自然を守る会）内部で討論した結果、開発には賛成するが、自然環境の保護などの『条件』が必要であろうという意見が大半となった。つまり『自然保護』という目的のみでは『由布院の自然を守る会』は湯布院町で正当性を得ることは困難となっていたと考えられる。その結果『由布院の自然を守る会』は、『明日の由布院を考える会』に再編された。

こうして、討論の結果として出てきた『条件』が必要であることから、同会は、昭和47年（1972）に自然環境保護条例制定運動を起こした。この運動に呼応する形で、町は同年に『湯布院町自然環境保護条例』を制定するに至る。同条例は、湯布院町周辺の自然を対象とし、その乱開発の防止を目的として制定された。その内容からも、湯布院町のまちづくりの一つの方向、すなわち、『まちづくり集団』の自然環境の保護と開発の規制という方向が、条例という形で正当性を得たといえる。（略）（『地方財務 1999年3月号』（大分県湯布院町の「まちづくり」と地方自治体の可能性（上）九州大学大学院 光本 伸江 著）

ここでいう「まちづくり集団」とは、「由布院の自然を守る会」を立ち上げた中谷健太郎、溝口薫平を核とする由布院の旅館業主を主とした方々ですが、次々と会の名称を変えたり、旅館業に拘泥しない様々な職種の人たちによる、いろんな目的を持った新しい会を現在でも作り続けており、融通無碍に変化しているので、彼らの活動をまとめて「まちづくり集団」と呼んだと私は、理解しています。

3. 大型ビル問題『ゆふいん論争』

「昭和58年（1983）11月、福岡市に本社のある企業が突如、湯布院町中心部の商業地域にビル建設の申請書を提出した。（建築基準法に基づく建築確認申請だと思いますが、県土木事務所の建築課に提出される前に、各役場の都市計画課などを通して、用途地域や敷地の接している道路が基準法のどの条項の道路に該当するか、など基本的なところを審査されます）計画によればこのビルは会員制ヘルスクラブで9階建て139室、700人収容、当時としては大変珍しいものであった。また

付帯施設として温水プール、テニスコート、ダンスホール、ナイトクラブ、ゲームコーナー等も含まれていた。この計画については特に建物の高さ・温泉源への影響及びダンスホール等の施設の内容が問題となった。建物の高さに関しては、高層ビルが建てられると町の中心部から由布岳が見えなくなり、町の景観が悪くなるという問題である。また、温泉掘さく制限地域であり高層建築のため地下を深く掘ると周辺の温泉源にも影響をおよぼすおそれがある。さらに健康な保養温泉地を目指している町にダンスホール、ナイトクラブ、ゲームコーナーなどの施設は風紀上問題であった。このため住民の間から『大型観光ビルと歓楽という異質なものは困る』と一斉に反対の声が上がり『反対期成会』が結成され、集会や署名運動が進められた。これに呼応して県も企画総室を中心に『関係課長会議』を作って対応策を検討した。建築確認に先だって『地方の町づくりは地方が決めるのだから、地方が反対しているのであれば地方と話し合いなさい』と説得した。町は企画課が窓口となり県と連絡をとりながら起業者に説得を繰り返した。（建築基準法では、確認申請書の審査日数が決まっており、もし、湯布院町が書類を県に回せば、土木事務所の建築課は、確認申請の審査に入り、法に適合しておれば、この場合21日間で確認済みの書類を出さなければなりません。だから、この例では、湯布院町役場で書類が止められていたと考えられます。これは、違法行為をしているわけではない民間に対して、官側に非常な決意がなければ、このようなこと、いわば役場が法律違反すれすれのことを行うということ、は決して出来ないとされます）さらにマスコミもこの問題を大きく取り上げ、大分合同新聞では、59回にわたり『ゆふいん論争』と題して成り行きを連載するなどして注目を浴びたため、起業者も社会の目を意識せざるを得ない状態となっていた。他方賛成派の住民も現れビルが建設されれば、商業活動が盛んになる、雇用が確保される、地価が高くなる等の主張を展開し反対派に対抗して署名活動を行ったりした。建築反対派と賛成派の割合は3対1であった。建築主の言い分は商業地で地価が高かったので建物を低くすると採算がとれないということが中心であった。町は建築計画が持ち上がって急きょ条例作りに取り組み翌年の昭和59年（1984）に『住環境保全条例』が町議会で議決された。これと前後して起業者は県を通じ

湯布院町と話し合うことを確認し、その結果

- (1) 5階建てとして、デザインも町並みと自然景観にあったものとする。
- (2) 建築によって温泉源に影響を与えないようにする。
- (3) ダンスホール等風俗営業は行わない。

などを基本として合意が成立して協定書に調印がなされた。(略)」(カッコ内は筆者による)
『法令解説資料総覧 No.109』〈潤いのある町づくり条例〉 湯布院町企画課 長谷川 弘 著)



これらは「潤いのある町づくり条例」制定の前提です。元湯布院町企画課 長谷川 弘氏は次なる危機を「リゾート開発ブーム」という題で続けます。

4. リゾートブーム

「湯布院町では、リゾート整備法が施行された昭和63年(1988)頃から急激な開発ブームとなり、この3年間で分譲別荘地及びリゾートホテル、リゾートマンションの総数は、同意済み・開発協議中及び問い合わせを含めて戸数に換算すると町総世帯数に匹敵する3,600に上がりこれが全て許可・実施されると新に町が一つ出現することになる。また、開発の申請地は、これまで開発が困難と思われていた山地まで進み、災害や自然破壊が心配されている。(略)

このようなことから、厳しい規制を盛り込んだ内容の条例を望む声がある一方、湯布院は専業農家が少なくその上高齢化して来ると、土地を高く

売って老後を送りたいと思う者や、今まで開発されることのなかった辺地には今の開発ブームが去れば当分は開発されることなく、地域は過疎化してしまうのではないかという声もあり、ただ規制オンリーの条例では真のまちづくりに充分でないことの配慮が必要であった。」

この湯布院町におけるリゾートブーム騒動を、前出の光本 伸江氏は次のような観点で見えていました。

『自然環境保護条例』と『住環境保全条例』に基づいて、時には反対運動を起こして、湯布院町は開発を規制してきた。ところが、上の2つの条例はいわゆる『指導要綱』の域を超えず、法的に条件を満たせば開発は自由に行いうるものであった。したがって、自然保護対策審議会や、湯布院町役場が開発側に『お願い』することによって、ある程度開発を規制せざるを得なかった。それでも、それまでは町は開発の規制をある程度行うことが出来ていた。ところが、リゾートブームによって、湯布院町は東京や大阪、福岡といった外部からの投機の対象となってしまった。その結果、圧倒的な開発規模や数に対して湯布院町の指導が困難になっていったのである。

こうした理由から、上の『自然環境保護条例』と『住環境保全条例』を一本化し、詳細な規則を盛り込んだ条例が必要であると、湯布院町は考え始めた。」

『地方財務 1999年4月号』(〈大分県湯布院町の「まちづくり」と地方自治体の可能性(下)〉九州大学大学院 光本 伸江 著)

5. プロジェクトX

ここからが、2004年11月18日NHKで放映された「湯布院 癒しの里の百年戦争」の後半の場面となります。

リゾートブームで湯布院町は提出された大規模開発計画を阻止すべく、新しい条例の制定に踏み出したのです。それも、放送では、開発業者と交渉をしながら、6ヶ月間も申請書を保留したといっています。建築行政に携わっていた私には、考えられない行為に見えました。よほどの気力と勇気と、由布院に対する深い愛情がなければ絶対に出来ないことです。同じ行政マン、いや私の場合は行政サラリーマンとして痛く感動し、目頭さえ熱くなったのです。

「1990年6月20日、大分県関係課へ、役場担当者が条例作成の必要性を説明しに赴いた。しかし、湯布院町の条例作成の動きに対する大分県関係課の反応は冷ややかなものであった。

なぜなら、湯布院町の『潤いのある町づくり条例』の原案は、非常に規制の強いものであり、上位法に抵触していたからである。(条例は、その法令の上位に根拠となる法律を有し、この場合、建築基準法と都市計画法だと思われませんが、下位の条例は、その上位法より規制が厳しかったり、規制項目を増やしたりは出来ないという決まりがあります) 法的見地から見て、条例は法令に違反(上位法より規制が厳しかったり、規制項目を増やしたりすること)することはできない。もし、上位法に抵触している条例をめぐって裁判が生じた場合、条例を制定した自治体側が敗訴する可能性がある。したがって、湯布院町の『潤いのある町づくり条例』は違反条例になる可能性があった。(略)

湯布院町と県との協議は、約1ヶ月の間に約5回にわたって行われている。主として県土木部建築課は、建築基準法などの上位法に照らして、町の条例原案は違反条例になるという理由で条例に反対した。しかし、『まちづくり集団』と県知事(平松守彦)は密接な関係であった。そこで『まちづくり集団』の協力によって、県関係課と湯布院町の担当者との交渉の場が設定された。(略) (『地方財務 1999年4月号』九州大学大学院 光本伸江 著)

並行して建設省との協議も行われたようですが、ここでも同様の指摘がされました。しかし、県よりも建設省の方が協力的であったといえます。そのあたりの事情を光本伸江氏は担当者であった長谷川弘氏の言葉を借りて次のように述べています。

「県や建設省と交渉し、条例を作成した長谷川は、『法律論ではこちらは素人なので負けてしまう。そこでまちづくりの歴史と自然の景観について訴えた』と語っている。つまり、彼は、上位政府、特に建設省は、法的な知識に関して非常に有利な立場にあることを認識していた。そして他方、彼は湯布院町のまちづくりの歴史や、湯布院町という地域の情報を熟知していた。そこで、彼は自らの得意な領域において交渉することで、上位政府から協力的態度を引き出すことに成功したのである。(略)」

さらにまたここでも、由布院のしたたかさが語られます。

「そもそも条例の原案は、町議会に提出し、開発申請を引き延ばす作戦のために当初作成されたものだった。したがってある程度、法令に違反すると知って原案は作成されている。しかし、違反条例は無効となるため、当初より、修正の必要性は認識されていた。(略)」 (『地方財務 1999年4月号』九州大学大学院 光本伸江 著)

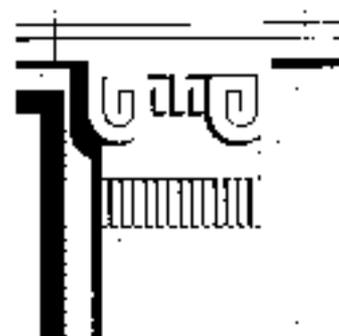
6. 反響と課題

最後に長谷川弘氏は次の言葉で「潤いのある町づくり条例」を総括します。

「非常に厳しい条例であるとマスコミの報道が相次いだことで、起業者は土地取得の時点から湯布院町の町づくりの理念を理解する努力をし、事前相談が今迄よりスムーズになった。条例施行4ヶ月を経過した現在まで問題点は発生してない。また、むやみな開発はさせないが、地方の特色を生かした調和のとれた開発は促進するという『成長の管理』の理念は歓迎されているが、条例を制定したからといって『素晴らしい町』ができるのではなく、要は町づくりに対する住民の合意を守り通そうする強い住民の意識と、町づくりに対し主体的な参加、そしてそれを受け入れる行政の体質が肝要であろう。」 (『法令解説資料総覧No.109』〈潤いのある町づくり条例〉湯布院町企画課 長谷川弘 著)

そして、この「潤いのある町づくり条例」の恩恵を大いに被ったのは、制定3年後に大分土木事務所 建築課に赴任した私でした。

今回の「個人的図書紹介」を作成するに当たり、資料提供等について湯布院町役場に大変お世話になりました。心からお礼を申し上げます。



MY WORK

- ★建物名称 グループホーム「大鶴の家」
- ★建築場所 日田市大鶴町
- ★建築主 社会福祉法人紫雲福祉会
- ★設計者 (有)藤原設計一級建築士事務所
- ★施工 (株)諫山工務所
- ★構造・面積 木造平屋建 400.71㎡
- ★用途 グループホーム

- ★設計趣旨 住まう人が、働く人が、快適に暮らし、働くこと。冬のしんしんとしみる寒さ、夏の湿度の高いむしむしとした暑さでも、春、秋のさわやかさのように、一年中、快適に過ごせる住まいを目標に、高气密、高断熱・計画換気の仕様にしました。



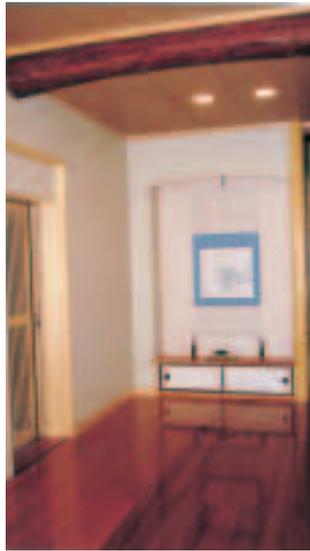
- ★建物名称 うばめ園デイサービスセンターあゆみ
- ★建築場所 津久見市大字千怒623番地の3
- ★建築主 社会福祉法人 豊友会
- ★設計者 東九州設計工務(株)
- ★施工 小代築炉工業(株)
- ★敷地面積 1,332.14㎡
- ★建築面積 433.09㎡

在宅の知的障害者が通所して、文化活動、機能訓練等を行うことにより、その自立を図ると共に生きがいを高め、住み慣れたまちで安心して暮らすことができるよう建設されました。



MY WORK

- ★建物名称 三国家旅館
- ★建築場所 豊後大野市三重町市場
- ★建築主 黒田商会 黒田 栄一
- ★設計者 (株)後藤建築設計事務所
- ★施工 (株)後藤組
- ★構造・面積 鉄骨及び木造 932.09㎡
- ★用途 旅館
- ★竣工 平成17年5月



新市の中心に位置する和風旅館「三国家旅館」。地域に愛され、三重町の発展と共に歩んできた老舗旅館ですが、新市への移行を機に三国家らしさを改めて見つめ直そうとした事が計画の始まりでした。

本館の殆どは木造から鉄骨造に生まれ変わりましたが、大梁に使われていた地松の丸太は玄関や階段に化粧として再利用し、訪れた人々の目を楽しませています。戦後、進駐軍が利用した客間や本階段は別棟とし、往時のイメージを今に伝えています。

お客様へのサービスと三国家らしさ、この2つのテーマを高い次元で叶えようとした旅館の皆さんの熱意を感じていただければと思います。



- ★建物名称 東中浜住宅
- ★建築場所 佐伯市(旧南海部郡)蒲江(町)大字 竹野浦河内
- ★建築主 佐伯市(旧蒲江町)
- ★設計者 井上一則/井上一則・空間工房
- ★施工者 株式会社 菅政建設
- ★構造・面積 RC・壁式構造 2階建
延床面積 670.58㎡
建築面積 344.32㎡
- ★用途 共同住宅
- ★設計趣旨

この建物は『風』というものをテーマにした。夏から秋にかけては台風による北よりの強い『風』にも対応しなければならない。

機能的には、A/Cに頼らない室内通風の『風』である。屋外階段・通路となる部分に木製の縦格子を設けることによって、飛来物への対策と目隠しという意味を持たせた。奥まった通路部に吹抜を設け、通風と採光を最低限確保した。

室内通風は出来る限りの窓、取付位置、大きさの工夫により、風の道を設けた。

建物の外観は県南の気候風土から、地中海をイメージし白を基調にして海の青と土の色をコラボレートさせた。一般的には裏となる北面だが、この建物では主役を北面に任せ、南面(バルコニー側)には脇役になってもらった。



北面全景



半屋外階段と屋外通路



北面の階段・スロープ、駐車スペース



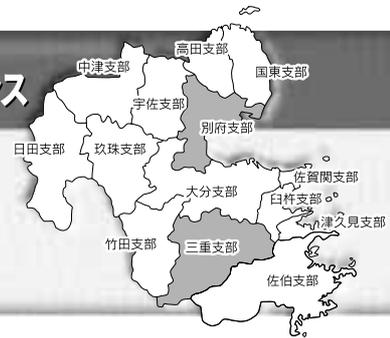
小規模世帯の玄関と廊下

PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

会員紹介

(掲載については順不同です)



- ★生年月日 昭和42年8月29日
- ★勤務先 (株)後藤建築設計事務所
- ★趣味 旅行、テニス

★将来の夢、モットー等

創業30年を迎える建築設計事務所の2代目です。
先代からの方針である「強く、美しく、心地よい建物」を自分なりに追求していきたく思っています。
ゼネコン設計部在籍時はスクラップ&ビルドを当然の事と考える節が有りましたが、社寺や古民家の再生事業に関わるようになってからは長年使い込まれた物への尊敬の念が増し、さらに一段と建築が面白く感じるようになりました。建築士会での交流を通じ、なお一層見聞が深まればと思っています。
よろしくお願ひします。

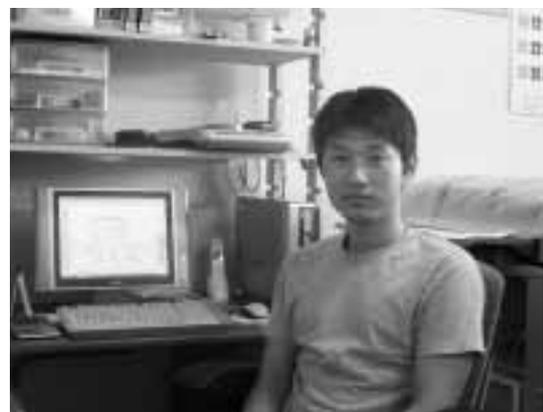


右が私、左が先代です。

後藤 康仁 (三重支部)

- ★生年月日 昭和50年12月9日
- ★勤務先 周設計工房
- ★趣味 ゴルフ、野球、釣り
- ★将来の夢、モットー等

一昨年に福岡の設計事務所を退職し8年振りに別府に帰郷しまして独立して設計事務所をやっています。建築士会の活動を通じていろんな方々と知り合い、建築の事だけに限らず様々な事を学んで成長出来ればと思っていますので宜しくお願いします。



今橋 周作 (別府支部)

PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

会員紹介

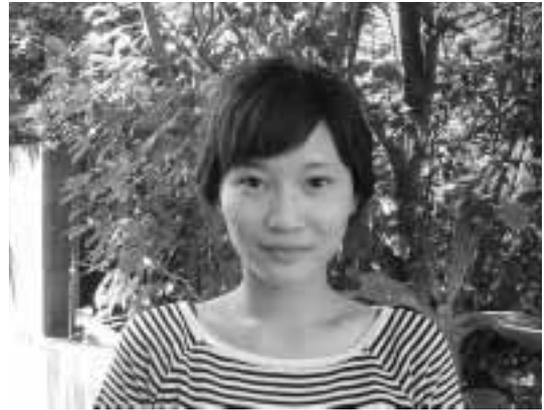
(掲載については順不同です)



- ★生年月日 昭和57年6月28日
- ★勤務先 T's architect 竜一設計工房
- ★趣味 小旅行・温泉めぐり
- ★将来の夢、モットー等

磯崎新（隣でT氏が言え！言え！ってうるさいので、）2年前に臼杵支部に入会しました。たくさんの人と出会い、いろんな話をしたいをモットーに、臼杵支部はいろんな個性的なひとがたくさんいて楽しんでおります。いろんな面で勉強できますし（T氏のシモネタを除けば・・・）それと臼杵の町並みが大好きです。

がんばっていきましょい！



竹中 友美（臼杵支部）

- ★生年月日 19??年12月10日
- ★勤務先 社団法人 大分県建築士会
- ★趣味 ショッピング
- ★将来の夢、モットー等

私は、2児の母です。将来の夢は、子供が成人したら、月に1回は、必ず旅行に行って、日本全国を回ってみたい ㄟㄟㄟ

長男は、Jリーグ☆に入れるようなサッカー選手になって、活躍をして欲しい。出来たら日本代表に出れたらうれしいです♪

長女とは、姉妹のように仲が良い親子になりたいと思います。

夢の夢ですが、まだまだ先の事なので、子育てを頑張りたいと思います。



大城 清香

「旧耶馬溪鉄道平田駅ホーム」

名称：旧耶馬溪鉄道平田駅ホーム

登録番号第44-0019号

所在地：大分県中津市耶馬溪町大字平田1361-3・4

建築年代：大正3年

登録：平成9年12月12日

構造・形式：石造プラットホーム

旧耶馬溪鉄道の第二期工事で造られた側面に、切石を2段に積んだ簡略的な形式のプラットホーム。鉄道の廃止により、現在はサイクリングロードの休憩施設として利用されている。地域住民と観光客の交流の場としても親しまれている。

往時の耶馬溪鉄道の様子を知る上でも貴重な存在であり、地域の歴史的景観にも寄与している。



『サイクリングロードから見た平田駅ホーム』



サイクリングロードの休憩施設であるこの建物は、旧駅舎を当時のままの姿で利用しているので、改札口だったことがよくわかる。

上りホーム（幅35cm、長さ58.5m、高さ57cm）

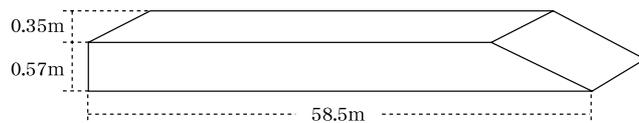


下りホーム（幅35cm、長さ48.2m、高さ53cm）

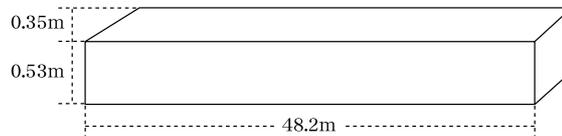


見取り図

【上りホーム跡】



【下りホーム跡】



「旧耶馬溪鉄道」

1913年に耶馬溪鉄道として開業。のちに大分交通の路線となった。山国川に沿って延びるこの鉄道は、沿線に青の洞門、羅漢寺、守実温泉などの観光地を控えていた。1970年代に入り、沿線の過疎化による利用者の減少と道路整備が進んだことからバス転換の方針が打ち出され、1975年に全線が廃止された。



まちづくり



津久見支部 竹田 光徳

津久見市では、いろんな制度を活用して、独自のまちづくりをするため、自由な雰囲気の中でユニークな意見やアイデアを出してもらいたいと、駅前通りの空き店舗を利用した、まちづくり情報カフェ『よらんせ』を開設しました。期間は、6月22日から8月10日までの毎週水曜日午後6時から9時までの期間限定営業でした。



スペシャルメニューの紹介をします。

- 6月22日 特産品づくりを考ようえ。
- 6月29日 商店街のにぎわいは、どげーしたらできると思うな。
- 7月6日 イベントで町を元気にしようえ。
- 7月13日 スポーツの町つくみは、どこにいったんな。
- 7月20日 保戸島生まぐろ・津あじ、津さばをどげーかしようえ。
- 7月27日 津久見みかんは、どげーかならんのな。
- 8月3日 観光について考えよう。
- 8月10日 働くところをどげーかしようえ。

トータル8回の開催でどのメニューでもいいし、新メニューでもいいし、色んな意見を出してもらおうと『特区コーヒー』『地域再生茶』『まちづくり紅茶』『よらんせジュース』等の飲物を用意しました。



1回平均25人の来店があり、7月13日までの意見として

- ・まちづくり ・地域づくり ・情報発信
- ・商工 ・観光 ・環境 ・文化 ・福祉
- ・生涯学習 ・資源 ・公共施設 ・行政
- ・学校利用 ・体育 ・祭り ・その他

等について143点がでています。

個人、地域、行政がそれぞれ出来ることを整理し、これからのまちづくりに生かしていきます。





大分市立大在西小学校

建物概要

建築場所：大分市角子原1丁目4番41号

建築主：大分市

構造：(校舎) RC造3階建 延床面積 7,498㎡
 (体育館) RC造平家建 延床面積 1,215㎡
 (一部鉄骨造)

設計：株式会社 九建設計

施工：(校舎) 平倉・藤建JV
 (体育館) さとう・三和JV

コンセプトに基づいた特徴は以下のとおりです。

○子どもの主体的・創造的な活動を支援する学校

多目的ホール、多目的教室及びメディアセンターを設置することで、児童の主体的な活動や相互の交流を深め、色々な事に興味や関心を持って豊かな創造性を育めるようにしています。



多目的ホール（隣接して家庭科教室を設置）



大分市立大在西小学校 正門より



メディアセンター（奥は図書館）

大分市立大在西小学校は、大分市大在地区の住宅事情から児童数が急増し、平成13年に児童数1,324人39学級で過大規模校（全校で31学級以上の学校）となっている大分市立大在小学校を分離するために計画、建設され、平成17年4月に開校しました。

建設にあたり、大在小学校分離促進協議会を地元で発足し、地元や学校現場の意見を聞きながら、設計・建設がされています。

基本設計は、

- 子どもの主体的・創造的な活動を支援する学校
- 安全でゆとりと潤いのある学校
- 自然にやさしい「エコスクール」
- 地域とともに成長する学校

の4点をコンセプトに計画されています。

全体に木を多用することにより、落ち着きと潤いの空間を作り出し、地域住民との相互の交流の場となるように広場やベンチコーナーを設置しています。

○安全でゆとりと潤いのある学校

アースカラーを基調に、大在のイメージカラーとして「ブルー・オレンジ」色を配色し、内壁・床等に木質系の材料を使うことで、明るく温かい空間にしています。



昇降口（ステンドグラスと格子状の木の組合せ）



廊下（フローリング・内壁共に木質系で温かみを）

○自然にやさしい「エコスクール」

雨水利用のビオトープ、太陽光発電設備及び屋上緑化による屋内外気温の上昇防止等、環境に配慮すると共に自然観察、体験する事で自然・資源の大切さを学べるようにしています。



ビオトープ

（雨水を水源に小川があり、稲作体験等自然を体験）

↓太陽光発電（30Kw、校舎内に解説パネル設置）



屋上緑化施設（南北校舎に約500㎡設置）↑

○地域とともに成長する学校

体育館と校舎間の渡り廊下の間には、ウッドステージを設置し、屋外コンサート等多目的に使用できるようにされています。また、メディアセンター入口には地域交流ホール・和室が設置され地域の方と児童との交流の場や生涯学習の場として利用できるよう考えられています。



ウッドデッキ

（体育館入口をステージに屋外コンサートも可能）



地域交流ホール

（学校・児童と地域を結ぶ場として設置）

このように既存の小学校とは、一線を画す小学校となっています。校長先生に話を聞くと、子ども達も学校が楽しいようで、その証明に不登校0名、欠席者も生徒820名の内1桁とのことでした。しかし、設備や芝生等維持管理面での負担と他校との格差で苦慮することも多々あるそうです。

良い施設、設備も良いですが、使用・管理する人の立場を考えた設計が大切だなと感じました。

大人と子どもの考えも違うでしょうし、学校はあくまで子どもたちが主役でしょうから…。

大分支部 飯倉 尚之



三重支部内での話題

三重支部 後藤 康仁

今回は三重支部内でのいくつかの話題について触れたいと思います。

先ず初めに犬飼町での古民家再生について。

(テーマ：納屋をギャラリーへ再生)

場所は旧野津町と犬飼町の境に近い細口地区で南下に広い原を見渡せるのびやかな所です。昨年、家主である足立氏より古い納屋の改修の相談を受け調査に伺った時、周辺の美しい田園風景に魅せられこの風景に溶け込む計画が出来ればと強く感じました。



昭和初期に建てられたと言う木造の納屋は、牛舎や納屋や離れと利用されながら今日に至っていました。

外壁は傷んだ所も見受けられましたが、小屋裏へ入ってみると三段の牛梁で組んだ小屋組はしっかりしたもので当時の技術の高さを感じました。

又、約12mの地松をはじめ構造材は丁寧に手斧が当てられ、その結果木材に虫食いが少なかったように思われます。その他、石積みの半地下室が設けられており、石の積み方も密で今の使用にも十分耐えられそうでした。全体の印象として、再生は十分可能だと感じました。

陶芸を愛する足立氏の要望を踏まえ、この小屋組と半地下室を生かした展示ギャラリーとしての再生案を提案しました。



工事には豊肥地区から難波棟梁、松尾大工さん、工藤左官さんの3名に参加してもらいました。3名共意気込んでこの物件に取り組み、寒さの厳しい時期でも休むことなく丁寧に工事を進めてくれました。



再生されたギャラリーでは足立氏愛蔵の陶器や絵画がセンスよく陳列され、温かみのある空間となっています。それはこの建物に関わった人々皆の愛情が籠っているからだと思います。

次に子ども大工道場の途中経過について。

・6月25日 入門式

県庁にて入門式が行われました。三重支部では首藤工務店が主体となります。選手宣誓は三重中1年生の後藤孔君が大きな声で行い、今後への期待の大きさを感じさせました。



・7月23日 基礎工事とCAD体験

朝地小学校にて駐輪場の基礎工事を行いました。暑い最中でしたが、会員の協力の下、基礎工事一式を行い、記念として土間に皆の手形を付けました。

その後、場所を移動しCADによる図面の書き方の説明を受け、実際に作図を体験しました。パソコンの扱いに慣れた子も多く、講師役の会員達も感心していました。

今後とも月一回のペースで道場を続ける予定です。



最後に、三重支部のホームページの開設について。かねてからの課題であった三重支部のHPが6月より開設されました。岡部支部長の努力の賜物であります。是非一度、下記アドレスにアクセスを。

<http://www16.plala.or.jp/sok-mie/>
(上記のこども大工道場の詳しい内容もHPに掲載中)



中津市金谷上ノ丁友松邸 「土塀」復元作業

中津支部長 梶田 康男

中津は、1587年黒田如水が中津城の築城を、その後城主となった細川忠興が、城下町としての「町割（区画）」を行い、小笠原氏時代に町が整備され、豊前の繁華の地とうたわれた一大商業地となり、奥平氏の時代に明治を迎えました。

近代になって、社会の発展にともない、全国的に古いものがおきざりにされ、この中津でもそのほとんどが失われました。そのような中で、この金谷地区は、当時の「町割（区画）」が広くまた、色濃く残っている、全国的にも非常にめずらしい地区です。我々は、この「町割」を保存し後世に伝えたいと考えています。



金谷地区の「町割（区画）」

その活動の一環として、友松邸の土塀を復元しています。この友松邸は、作家の獅子文六氏の父親の建物で、氏が少年時代の夏休みに帰郷して過ごした住まいでした。小説「父の乳」に「庭は、かなり、旧態を存してた。武士の家らしく、石や松もあつたが、それよりも、軒に近い一隅に、石で囲んだ古井戸があつた。」と記されています。今もこの古井戸があります。

作業は、やっとなら基礎の自然石積みと、土ブロック作りが終了したところです。これから、土ブロック積み、土壁ぬり、瓦葺きと作業は進みますが、施工内容は次の機会に紹介したいと思います。



友松邸の土塀



土塀の解体



残った根石



土ブロック作り



自然石積み



土ブロック養生



報 告

日田市豆田町重要伝統的建造物群保存地区 選定記念シンポジウム

— 平成17年2月19・20日 開催 —

日田市文化財保護課 吉田 博嗣

今回は昨年12月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された日田市で行なわれた上記シンポジウムの内容についてご紹介いたします。

全体のテーマは、今後のまちづくりをにらんで、「本物のまちづくりを目指して—歴史的な町を未来へ伝えよう—」と題し、2日間にわたり開催されました。

初日の19日（土）は地元・豆田町の宇治山哲平美術館を会場に3つのプログラムが行われ、約150人の参加者がございました。

【記念講演会】講師：石森秀三氏（国立民族学博物館）

「文化遺産の保存と観光振興—町並み保存が日田市の未来を拓く—」のテーマでご講演いただき、これまでの住民による歴史的町並みの保存活動を評価した上で「今後はどう維持していくかが問われる」と指摘された。また、21世紀を「自律的観光の時代」と位置づけ、「これからの観光は幸せを感じさせる『感幸』が大切。歴史、自然、人情の美を育み、歳月をかけ、住民主導で自律的に、地域資源の持続可能な活用を図ってほしい」と呼びかけて結んだ。現在、石森氏は文化審議会（文部科学省の諮問機関）文化財分科会の委員であり、また小泉首相のもと設立された観光立国懇談会の委員としてもご活躍されています。

【町並み探訪】市内の建築士やボランティアガイドの協力を受けて、小雪の散る天候の中、豆田町と隈町の町並みを3班に分かれて散策いたしました。



【記念音楽会】地元・豆田観光協議会の主催によるシンポジウム協賛事業として女性弦楽四重奏団「アンサンブル・アルドール」によるコンサートが夜7時から開かれ、約100人が酒蔵に響く音色に聞き入っていました。

20日（日）は会場を中央公民館に移して、以下のプログラムが実施されました。

【基調講演】講師：大河直躬氏（千葉大学名誉教授）

テーマ「文化財として町並み保存を考える—これからのまちづくりの展望—」と題して、国内の町並み保存の歴史を概観し、今後の伝建地区の課題についてご提言をいただきました。



大河氏は、歴史的な町並みのマストურიズムによる繁栄という課題に対処するためには、2つの代表的モデル考えられるとして、

- ① 建物の「復元」や「修景」を積極的に進め、町並みを復元的に再現することで、それらに外部資本を入れるなどの積極的な再生事業を行なうこと。（彦根・伊勢市や門司など）
- ② 「DNA保存・育成型」は京都での町家保存や阪神・淡路大震災後の復興事例を取り上げ、長く伝えてきた町の暮らしの仕組みを守ることは、建物を守ることと同様に大事なことで、例え町並みが虫食いの状態であっても、そこでの暮らし方・知恵・技能等をDNAのように守っていけば、将来、それらを活かした町並みを再建することは可能であるという考え方。

以上、2つのモデルを示され、これまで伝建地区では町並み景観を重視した保存の取り組みを進めてきたが、現在はそれだけでなく、町や村の暮らしのDNAを守っていく役割も持つようになったと、伝建制度発足から30年の歴史を振り返りながら、貴重なお話をいただきました。

【記念講演】講師：村上裕道氏（兵庫県教育委員会）

テーマ「地域の歴史文化遺産をまちづくりに活かす—ヘリテージマネージャーの育成について—」

村上氏は兵庫県教育委員会文化財室に所属し、現在、「ヘリテージマネージャー（歴史文化遺産活用推進員）」の育成に取り組んでいます。阪神・淡路大震災をきつ

かけに、兵庫県では歴史的建造物の重要性を再認識し、これらを守り、これからのまちづくりに活かすためには人材育成（人づくり）が必要であるとして、その取り組みについてご講演をいただきました。（詳細は後述）

【基調報告】講師：宮本雅明氏（九州大学教授）

テーマ「日田豆田町の町並みと町家」と題して、これまでの調査成果を踏まえ、建築史的な価値から豆田町の魅力についてご報告をいただきました。

【パネルディスカッション】

日田市出身の後藤宗俊氏（別府大学教授）をコーディネーターに迎えて、町並み保存を専門とする大学の先生方や日田市長、住民代表らによるパネルディスカッションが行なわれました。また、コメンテーターとして江面嗣人氏（文化庁）、村上裕道氏（前出）にもご参加をいただき、これまでの選定に至る取り組みの経過や制度導入後の課題などについて活発な意見が交わされました。その中で、江面氏からは他地域の町並み保存や活用事例を参考に上げ、建造物が持つ本来の価値を損なっている活用例が多く、建物の持つ歴史性（＝本物性）を大事にすることが基本であるとの考えを強調され、歴史的建造物の歴史性を無視した活用法は町並みに調和しない一過性のものであるだけでなく、そのような行為がいずれは町並みの崩壊を招く要因となることを喚起し、面として保存することの難しさを会場の方は感じとったのではないかと思います。



また、まちづくりは継続的にかつ広がりを持つことが求められることから、地域性を活かした取り組みが大事であり、その中で宮本氏は「豆田は先人が質の高い建物を残してくれている。今でも日田市の建築や左官などの技術者の環境が整っていることは注目され、これからは伝建地区内の伝統的建造物の修理を通し

て、すばらしい伝統技術を継承してほしい。」と意見されました。

また、住民代表からは次世代に伝えることの重要性や保存会組織の必要性、更なるステップアップを図ることが必要であるとの意見が出た。

今回、豆田地区の住民が選択したこの制度はあくまで文化財の視点で取り組む「まちづくり」の一手法であり、伝建制度の精神を柱にして自らが目指すべき方向性をしっかりと持つことが大事である。この制度は年限のあるいわゆる公共事業とは性格が異なるため、将来にわたって常に住民が中心となって取り組んでいかなければならない。国から重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けただけでは町並みが保存できるわけではないことを肝に銘じ、私たちも今後の豆田地区のまちづくりを支援していきたい。

付記：「ヘリテージマネージャー」について

村上裕道氏の講演内容については、講演後、大変興味深いとの声を多数の参加者にいただいたため、ここではもう少し詳しい説明をさせていただきます。

1995年の阪神・淡路大震災から10年が経過し、震災後の歴史的建造物の消失と地域の環境の激変は、住民の精神的風土に大きな影響を与えたといわれています。そのような状況を受けて、兵庫県教育委員会では「循環型社会における歴史文化遺産の活用方策について」及び「次世代への継承と新しい文化の創造のために」という方針検討から、平成14年度に「歴史文化遺産活用構想（素案）」を作成し、その具体的な取り組みとして、歴史文化遺産を再発見し、活用し、地域づくりに共働する「ヘリテージマネージャー（歴史文化遺産活用推進員）」の養成が始まっています。

兵庫県リカレント学習システム調査研究会（※1）の報告によると、歴史文化の分野においては地域の個性を「地域の豊かな特色」に発展するため、歴史文化遺産をコミュニティーの財産として利活用するマネージャーが地域住民から強く求められており、また持続可能な循環型社会へと移行しつつある現在は、歴史文化遺産をストックとして有効に活用することが社会的・経済的にも求められているとしています。しかしながら、現状では歴史文化遺産マネジメントの専門的な学習講座がないため、マネジメントを掌る専門家の人数が少なく、マンパワーの不足から歴史文化遺産を活かしたまちづくり活動が幅広く行えないのが実状であるとも報告しています。

このため、新たに要請されている職業能力であるヘリテージマネージャーを、建築士等周辺分野の職業能力から、高等教育機関・プロフェッショナル団体（建築士会）との連携のもと養成し、養成講習会修了者に

新たな職業分野での活躍を導入できるシステムの構築に取り組んだわけです。

また、これらについては（社）兵庫県建築士会の全面的な協力のもと行われており、現在は京都府や静岡県など全国各地でこのような取り組みが始まろうとしております。

なお、この制度の受講者には兵庫県教育委員会より修了書が授与され、希望により「ヘリテージマネージャー」として登録されます。県では修了者を（財）兵庫県都市整備協会「ひょうごまちづくりセンター」に推薦し、同センターの人材バンク「景観アドバイザー」に登録されることにより、まちづくり活動団体へ派遣するなどの連携体制も整ってきています。また、登録者はホームページに掲載する等して周知を図っている。

大分県建築士会でも住まい・まちづくり活動推進協議会と（社）全国市街地再開発協会の要請から、住まいやまちづくり活動に実績を有する専門家のデータベースの構築に入っていますが、現在の登録要件だけでは専門性を量るに乏しく、住民や所有者の求める適切なアドバイスが出来るかどうか、利用者側の判断材料に欠けている感があると思います。しかし、このような取り組みはまだ始まったばかりであるので、今後の取り組みの広がりや内容の拡充に期待したい。

※1 研究会組織は会長に兵庫県教育委員会教育長、事務局は県教育委員会文化財室が担当し、兵庫県建築士会や（財）文化財建造物保存技術協会等を中心として、京都大学・神戸大学・明石工業高等専門学校の先生方も参画されている。

※ なお、今回は「大分県指定有形文化財長福寺本堂保存修理工事について」の報告は休ませていただきます。

i n f o r m a t i o n

お 知 ら せ

I N F O R M A T I O N

別府の観光、景観、緑の まちづくりへの期待

～ 景観緑三法と都市間競争の時代を迎えて～

10月4日は都市景観の日です。

別府市で、景観・緑分野の日本での第一人者である越澤明教授を迎え、景観と緑をテーマにしたまちづくりについての基調講演があります。

また、聴衆を交え、景観と緑について意見交換を行う時間もあります。

興味のある方はぜひご参加下さい。

平成17年10月1日(土) 13時～15時
別府市中央公民館 大ホール

主 催：別 府 市
参 加 費：無 料
定 員：500名

※駐車場あり……中央公民館駐車場
……社会福祉会館南側駐車場
……別府公園東側駐車場

● プログラム ●

12:30 開 場
13:00 開 会
・ 基調講演
・ 意見交換
15:00 閉 会

お問合せ先

別府市役所
都市計画課景観推進係

〒874-8511
別府市上野口町1-15
TEL 0977-21-1111 内線3402



臼杵の町屋

臼杵支部 赤嶺 竜一

臼杵の町には古い町屋があちこちに残っている。数はそんなに多いとはいえないが、気をつけてよく見ると1階部分を改修したり、大きな看板を掲げたりなどして、その姿を隠すようにひっそりとたたずんでいる。中には近頃の工事で過剰にその姿を主張したりしているものもあるが、それらの多くは、かつての臼杵には無かったデザインを採用し、臼杵の町屋というにはちょっと憚られるものも少なくない。

そんな中で、今回紹介する「T家住宅」は、一時解体の岐路をたどりながらも、T氏の強い要望・愛着もあり再生へといたり臼杵の町屋を再現しました。「T家住宅」は明治5年に建造され、大工棟梁は臼杵の中でも名工と言われた東秀蔵で、氏の手にかかったもの

で臼杵市内では福良天満宮神殿・昼屋町八満社・大浜天神社・善法寺・龍原寺、近隣では津久見の西教寺・三重町の浄雲寺などその地域を代表する神社仏閣が多くあり、いわゆる宮大工としての社寺建築はこれまでも数多く知られていたが、町屋などの一般建築の作はこのたび初めて確認されたものである。年代的にも古いことから臼杵の町屋造りの基本的な形態を示すものであると考えられ、そのファサードは片持庇、セガイ軒、鳥衾瓦、格子窓、防火壁（ウダツ）など臼杵の町屋の典型的な意匠を備えた貴重なものである。改修前は現代の様式に一部修繕されていたが、今回当時の風貌を再現し、海産物屋、2階はギャラリーとして生まれ変わりました。臼杵の町中探訪に訪れた際には、ぜひ立ち寄っていただきたい一軒です。

資料：臼杵市文化財調査研究会

Y氏所見抜粋

投稿記事



県	立	高	校						
		大	規	模	改	修	事	始	め

大分支部 野上 和彦

最近、文部科学省では、学校施設整備の方針が、これまでの新、改築中心から既存の学校施設を長く使うことを基本方針とし、今までの施設を有効活用する改修による方へ施策転換を行っているようだ。大分県としては、随分前から大規模改修工事として取り組んでいる。

私の記憶が薄れないうちに大分県の県立高校の大規模改修について書いてみた。

1983年から1988年までの5年間、大分県教育庁理財課（現在の学校施設課）に技術係長として在籍した時のことである。仕事の内容は予算書の作成、県立高校や養護学校の新設、増設の基本設計、現場監理、既存校舎の維持管理など技術に関することであった。理財課には施設台帳、学校便覧、工事台帳などの資料があった。時代の背景として当時も建築業界は少し冷え込んでいた。

着任した時は大分南高校、別府羽室台高校の新設校を建築中であり、大分豊府高校、大分情報科学高校の新設校の設立にも係わることができた。当時の主な仕事は、柔剣道場やプールの新設、農業高校の実習棟の建て替え等であった。

☆県立高校の視察

予算書を作成するため高校の現地を調査した。また維持管理のため校舎を覗いて回った。1番目に付いたのはトイレの汚れであった。驚いた。ドアを蹴破る、落書きをする等の悪質な悪戯がされていた。外壁のコンクリート、モルタルの汚れ、亀裂、浮き、落下、その破片が落ちていた。内壁の汚れ、傷、変色、亀裂、浮きがあった。床のタイルの剥げ、部分的に張り替えはしているが在庫がないため材質や色違いのアスタイルやPタイルが貼られていた。天井のボードの変色、汚れ、剥がれがあった。スチールサッシが錆び、開閉が出来なかった。3割ものサッシの開閉が出来ない学校もあった。屋上防水の痛み、水勾配が取れていなかった。屋上に土が堆積し、雑草が生えドレーンがふさがり常に雨水が溜まっていた。エキスパンションジョイントのエラストイトが硬化し、コンクリートを引き裂

いてそこから漏水していた。

どの学校も一様にコンクリート、モルタルの亀裂、浮きによる落下の危険性があり、外壁、内壁、天井、床が汚れていた。今までよくここまで放置していたものだと思った。

「よし、教育環境を良くしてやろう。」

☆問題点

1校あたりの改修規模が大きすぎ、とてつもない予算規模になりそうであった。新規事業として予算要求をしなければならない。今までの改修工事は雑修繕工事と言って年間の予算が1校当たり平均500万円位だった。

改修工事の予算書を作成するためにはその物件の調査をする。どの様な調査をすればよいのか、誰がするのか、また出来るのか、その調査費は、調査費の根拠は、調査をした後、設計書を作成する、その設計委託費の根拠は、いずれにしても調査も、設計も、これから先の作業量などを推測すると民間に委託する方法しかないと思った。多分、工事は夏休みになるだろう。短期間での工事が可能なのか。

300棟位ある全ての校舎の見積もりを採ったことがある。屋上防水改修工事費は防水メーカーのT社に、スチールサッシからアルミサッシへの改修工事費は被せ工法の協会に、莫大な数字になった。一棟丸ごと工事をしなければ、工種毎のバラバラの工事ではどうしても仮設工事が重複し無駄が生じる。構想はひろがってきたが解決しなければならない問題が多すぎた。

☆理財課長に説明

大規模改修を思いついた経緯、学校の現況、これからの作業工程、3、4年で予算化し工事を実施したい。そのためには寄り付きの良い「大分商業高校を大分県建築士事務所協会の会員に開放し調査をしたい」ことなどを説明し、理解を求めた。「お前に全部任せる。好きなようにやれ。」Y課長は言った。有難かった。

☆大分県建築士事務所協会

1985年 会長 仲摩 衛 事務局長 板井 健 常務 甲斐 武久

事務局長の故板井氏は県庁のOBであった。また常務の甲斐氏とはよく情報交換をしていた。今回の構想を2人に打診してみた。勿論協力してもらうことが前提である。面白いと言ってくれた。

今までの経緯について、また構想についての説明会を開いた。特に強調したことは、「これは初めての試みである。皆さんが大規模改修工事の勉強をしたくても民間の建築物は提供してくれない。こんな体験が出

来るのはこの時しかない。また、最後に皆さんの協力なくしてこの事業は成立しない。」ことを話した。前にいた一人から質問を受けた。「係長、私達を只働かさせるのか。」「4年したらあなた達に設計を委託します。」私には自信があった。このような大事な事業は放置しておけない。絶対に予算は取れる。

(この項は、甲斐武久氏と協議のうえ書いた。)

説明会のあと事務所協会の組織に保全調査特別委員会を立ち上げた。協会員に呼びかけ協力を要請した。調査に対する経費、労務費の負担は自己負担とする。27社が参加を申し出た。

その年の夏休みに調査を始めた。作業班を棟別〈管理棟、教室棟、特別教室棟、体育館、渡り廊下〉に分け5班に編成した。用途の違う棟毎の平米当たりの単価を算出するためである。

調査機器を購入した。コンクリートの劣化状況や中性化の確認をした。経験者を講師に鉄筋錆びにより爆裂している個所を選び、はつり、試薬を噴霧し中性化深さを測定した。外壁等のひび割れ、浮き、露筋。サッシの劣化状況。内部仕上げの劣化状況。屋上防水の劣化状況調査。この調査には苦勞した。真夏の中、コンクリートの照り返しがきつかった。田植えのように横一列に並び金槌で仕上げモルタルの浮きを調査した。暑さで喉が渇き何杯もの水を飲んだ。

劣化状況のまとめには、参考書(当時は少なかつた)として日本電電公社等の資料を使用し、協会に集まり検討した。ひび割れ、浮き、露筋等の表現方法の統一。積算の方法、単価の問題等、知識不足を痛感した。

研修会を企画した。基本から勉強しよう。材料の性能、特性等の知識を学ぶため平居先生(当時大分大学)をお願いした。参加できる者は毎回15人前後と少なかつたが土曜日の午後、事務所協会会議室で「鉄筋コンクリート造建築物の耐久性向上技術」等をテキストとした。また、大分市視聴覚センターで、セメント、コンクリートに関する映写会(セメント協会貸出し、16ミリ)を行った。また、県の建築職員と合同で県立芸術会館の外壁タイルを赤外線カメラで調査したこともあった。次から次と現場見学会、研修会を開催した。また研修会で使う参考書以外に新しく出た本を購入(調査の経費、参考書代は1事務所当たり100万以上かかつたと聞いている)し、知識を吸収した。前にも述べたが当時は改修の特記仕様書もなく苦勞した。その為、設計書を作成する上で仕上げ表には詳しく施工工程を記載した。

☆予算要求書の作成

建築士事務所協会と保全調査特別委員会の協力のもと調査設計委託費の根拠、図面、写真、設計書により

大分商業高校の各棟ごとの調査設計委託費及び大規模改修工事費の算出が完成した。あとは我々理財課が一丸となって、どの様な資料を作成し財政課を納得させるかにかかつた。全ての学校を観て回つたわけではないので台帳から古い順に校舎を拾い、その校舎が管理棟なのか教室棟なのか特別教室棟なのかにより、棟ごとに算出した床面積に平米当たりの単価を掛け工事費を算出した。また、なぜこの事業が急がれるのか危険箇所、汚れ等の写真を添付し、5ヶ年の計画書を作成した。莫大な額の予算書が出来上がった。

こんな事もあつた

☆PCコンクリート製手摺りの落下

豊肥地区に地震があつた。三重農業高校の3階建ての校舎のベランダの手摺りが落下した。重量はおおよそ300キログラム。2本の柱に手摺りが載りその柱と手摺りは二箇所づつ番線の太さの鉄筋に溶接されていた。落下した手摺りの1箇所の2本の鉄筋はずでに錆びて切れていた。もう1箇所の2本の鉄筋のうち1本は錆びて切れていて、もう1本は鉛筆の芯の太さになっていた。その1本が今回の地震で切れたため落下したのだ。

これを機会に県立高校のコンクリート製の手摺りを調査したところ、かなりの学校で同様の手摺りが取り付けられていることがわかつた。

ある学校では屋上の手摺り全体が校舎の外側に傾いていた。校長に説明し生徒が近づかないよう下に縄を張っていただいた。後日、その手摺りを撤去して、わかつたことだが、手摺りを支えている柱の主筋が本体にアンカーされているがその定着長さが15ミリしかなかつた。しかも9ミリ筋が一本であつた。多分、差し筋をするのを忘れていたのだろう。コンクリートが固まりかけていたので差し筋が入らないまま施工を終えたと推測される。

また、ある学校の事務長さんから電話があつた。「屋上の手摺りが3階の庇の上に落ちている。落下してから折れたのか、折れてから落下したのかかわからないが、とにかく直ぐ見に来てほしい。」と言われた。皮肉めいた言い方に聞こえた。コンクリートの手摺りは鉄筋が入っているので折れるはずはないと一笑した。行って見た。確かに折れていた。しかも4つのピースに割れていた。施工者を調べ電話をしたところ、部長から「手摺りが折れるはずがない。」と返事があつた。「関係者なら誰でも同じことを言うと思います。現場に行つて見てください。」と、お願いした。まもなく電話があり「折れていました、早速手配します。」との回答があつた。長さが4.5メートルもある手摺りに鉄筋が入っていないとは考えられない。製

品の品質管理、現場の施工管理確認を怠っていた。もし底がなかったら・・・。

かなりの学校の手摺りの改修は緊急を要した。

☆アスベスト吹き付けの除去



天井アスベスト撤去前の養生

アスベストの危険性が問題になった。特に学校の中でアスベスト材を使用している。遅発性の発ガン性物質である。この物質は耐酸性、耐アルカリ性、耐熱性、吸音性など優れた建築材料として、また、ブレーキシュー等工業製品として安価で施工しやすく重宝がられていた。先輩に聞いてみた。学校では特に吸音性が高いことから階段室や教室の天井に使用されている。製品名はトムレックスである。

現地での調査をした。古い設計書と照合してみた。かなりの学校でトムレックスが使用され教室や階段室の天井に吹き付けられていた。



密閉された中での撤去状況

サンプルを採取した。新日本製鉄株式会社大分製鉄所試験分析センターに持ち込んだ。所長代理の田中靖二氏に試験を依頼した。間違いなくアスベストを含んでいることを確認した。処理方法として全面除去、固化する、封鎖する、の3通りであるが、大分県は全面

除去する方針で検討した。

初めてのことである。調べていくうちに労働基準法ではすでに法律が出来ていてアスベストを扱う場合の資格やその作業方法が決められていた。労働基準監督署に園田という先輩がいた。いろいろとお世話になった。



完全密閉された教室の出入り口

除去の工事を発注するため仕様書や設計書を作成しなければならない。株式会社日栄の社長は河上と言った。会社の前に手ごろな倉庫があった。100平方メートルの鉄筋コンクリート造である。そこに岩綿を吹き付け、アスベストに見立ててそれを鉄ヘラで落としその作業に要した材料、機器、人員、時間などをチェックし歩掛を作成した。県民の皆さんにアスベストを知ってもらうため、大分合同新聞社を始めテレビの各社にも来て貰いアスベストの怖さ、その作業状況を報道してもらった。室内をビニールシートで密閉し新鮮な空気を送り込みながら作業服、帽子、作業靴、手袋、ゴーグルをかけ作業をした。



工事中の外部汚染状況の測定器

勿論、本番では1度身に付けたものは全て廃棄処分する。また、作業員は特定化学物質等作業主任者の資

格が必要である。私もその資格を取得した。何とか仕様書を作成し建築課の営繕担当にチェックを依頼した。



撤去されたアスベスト

☆九州地区公立学校建築技術協議会研修会の研究発表

県立高校の大規模改修工事について研究発表をした。大規模改修を思いついた経緯、大分県建築士事務所協会会員の内、この事業に賛同してくれた有志が設立した建築物保全調査特別委員会のメンバーが大分商業高校の調査、設計などをし、それに要した費用は全て彼ら持ちになったこと、事務所協会としてもこの事業に全面協力を取り付けたこと。現場の調査の様子、勉強会の様子などをスライドを使いながら発表した。今までの修繕工事は屋上防水の補修、床タイルの張替え、モルタルが剥離した部分の塗り替えなど小規模の物件ばかりであった。他の県も同様であったため大分県の大規模改修の計画には一様に驚いていた。なかでも県が1円の補助もなく設計書まで作成できたことが注目された。

☆田原分校の外壁落下

1988年2月中津南高校にいた。午後5時ごろ理財課から電話がかかってきた。大田村にある田原分校のモルタルが落下した。「時間は遅いのですが、学校に行ってみてください。」との内容だ。学校に着いたのは午後7時ごろであった。3階建ての校舎があり運動場がある。その向こうに教頭先生の宿舎がある。教頭先生を呼び2人で屋上に上がった。寒かった。パラペットの天端のモルタル笠木に亀甲型の亀裂が全面に広がりコンクリートから浮いていた。パラペットと梁のモルタルが長さにして14メートルに渡り落下していた。厚みは40ミリ程だった。教頭先生の話だと授業中だったから良かった。もし放課後の掃除の時間だったら大事故になっていたかもしれない。

落下したモルタルを持ち帰り、財政課のZ主任主計

員に見せた。驚いた。直ぐに予算が付いた。校舎屋上の北側にある雪は何日も溶けることなく積もっていることがある。亀裂の中に雨や雪がはいりそれが氷となりモルタルを剥がしていったものと思われる。2階の柱半分から上の部分が浮いていた。

☆予算が取れた

大規模改修工事を思いついて予算が確窟するまで丸3年かかった。しかし大分県建築士事務所協会との約束は果たせた。財政課に予算要求した始めの年は一蹴された。新規事業である。国の補助制度はないため県の単独事業でもある。また、予算規模も一事業当たり億単位である。しかもこの事業は、校舎を建て替えるまで続いて終わりが無い。あまり議論もないまま1年目は終わった。2年目は財政課の担当も現地に行き、ある程度危険性を認識したのだろう少しは理解を示した。3年目は私どもの熱意、校舎の汚れ、コンクリート、モルタルの落下の危険性、現実起こった田原分校のモルタルの落下、また、県議会での質問など追い風となった。とうとう大分商業高校の大規模改修工事の予算が確定した。今でもはっきり記憶しているが、Z主任主計員から「野上さん。本当に大分商業高校だけで良いのか。他の学校は急がなくて良いのか。」と質問された。「私どもが勉強し、研究し、調査し、設計書の作成をしたものが本当に正しかったかどうか試験的に大分商業高校で工事をしてみて確認をしてみたい。その通りであれば引き続き、毎年他の学校も予算を要求していきます。」と答えた。

私はその年の春、三重土木事務所に転勤した。大規模改修の工事に直接担当者として参加できなかった。大規模改修工事がスタートしてから17年経った現在でも耐震改修工事とあわせて進められている。

2005. 6. 13

『専攻建築士』 17年度募集のお知らせ

専攻建築士の募集・受付を10月中旬～12月中旬に行います。

募集要項等詳細については会誌「建築士」10月号とあわせて会員のみなさんにお送りすることになります。

行政だより

大分県 建築住宅課

吹付けアスベスト調査について

アスベストの健康に対する影響は、今年6月に株式会社クボタがアスベスト製品の製造状況及び健康被害を受けた従業員数を公表したことが発端となり、その後アスベスト製品製造会社が次々とアスベスト関連疾患の患者数を公表したことで、全国的なものとなっています。

当課では、7月の国土交通省からの依頼を受けて、S31年頃～S55年までに施工された民間建築物の所有者等に対して吹付けアスベストの使用状況等の調査を要請しています。さらに8月には、調査対象建築物にS56年～H元年までにアスベスト含有ロックウールが施工された民間建築物を追加しています。

大分県では、アスベストに係る相談窓口を設け、一般からの健康、環境及び建築の相談に対応しています。

防災講演会「震災に学ぶ」の開催について

去る4月21日、iichiko音の泉ホールにおいて、(財)阪神・淡路大震災記念協会理事長の貝原俊民氏と大分大学工学部教授の菊池健児氏を招き、防災講演会を開催しました。

同時に、アトリウムプラザにおいて、地震関連写真を中心としたパネル展示を行いました。

当日は、平日にもかかわらず500人を超える聴衆が詰めかけました。

平成17年は阪神・淡路大震災から10年、大分県中部地震から30年という節目の年であり、この機会に広く県民の地震防災に対する理解を深めてもらうことを目的に、この講演会を企画しました。以下に講演内容を示します。

講演内容

大分大学工学部福祉環境工学科建築コース教授

菊池 健児氏



大分県中部地震、阪神淡路大震災の被害状況を写真にて説明。1階に十分に壁のある建築物は無被害であり、壁の役割の重要性をあらためて認識した。また、壁式構造の耐震性が実証された。

福岡県西方沖地震の被害の状況を同様に写真にて説明。玄海島や福岡市内でもコンクリートブロック塀が倒壊した。福岡ビルは窓ガラスが破損、落下した。

玄海島では、非木造の建築物については大きな被害はなかった。福岡市内では比較的新しい建物も無被害ではなく、マンションの小壁が破壊されてドアが開かないといった被害を生じた。

活断層による地震はいつ起こっても不思議ではない。耐震補強の例を示す。

公共建築物はより一層耐震補強の推進を。病院等の防災上重要な施設について耐震補強が急務。住宅はほとんどなされていない。住民が行政を動かしていく力が必要。もし大地震が発生した場合には大分は壊滅的被害を受けると言うことを考えて行動して欲しい。

(財)阪神・淡路大震災記念協会理事長

貝原 俊民氏

人と防災未来センターで使用している、阪神淡路大震災を再現した、迫力ある映像を流す。

貝原氏は震災当時に兵庫県知事として復興活動に携わったことから、その際に得た教訓について話した。教訓1.「どこでも災害は起こりうる。」

日本は災害列島である。」

関東に比べると関西は地震が少なく小さいが、大分県でも大地震が起こらないとは言い切れない。日本はドイツに比べて急峻であり、地質も軟弱なので災害を受けやすい。河川氾濫区域内に人口の半分が住んでいる。日本には密集市街地が2万haある。人口移動により災害の伝承が断絶している。日本は地震の活動期に入ったと言える。これらのことにより、危険性はいっそう増加している。

教訓2.「自らの命は自らで守る。」

災害が大きいほど、公的な救助はその能力に限界があるため期待できない。この場合、地域の結びつきが威力を発揮する。被災者の秩序ある冷静な行動は国内外で高く評価された。反面、公的機関に対する評価は厳しい。災害に対しては、自助が7割、共助が2割、公助が1割ぐらいと考えてよい。

教訓3.「地域の防災力を高めること。」

戦後の日本は危機管理を怠ってきた。地方自治体、住民の危機管理能力を高めることが必要。東海・東南海地震が同時発生した場合、中央の組織はほとんど救助することができないだろう。

自助あるいは共助によってのみ飛躍的に災害を減ら

することができる。

災害に対しては農村型・漁村型のコミュニティが重要である。戦前の隣保組織は封建的であるとして排除されたが、中央組織が住民のコミュニティをバックアップする必要がある。NPO認定の防災士の養成を始める。防災士が各職場に1人いれば、いざというときに避難等がうまくいくだろう。

教訓4.「災害に備える。」

欧州には地震、台風がなく、防災力がない。発展途上国も然り。世界で防災レベルが高いのはアメリカと日本くらい。できる限り被害を小さくするためにはハードの整備をすることも有効である。災害を「防ぐ」より「減らす」という考え方に。危険な場所は昔から言い伝えられていたことを思い出すべき。災害に対する知恵、技術そして心構えを再構築しよう。耐震改修費用がかさむのであれば、せめて寝室だけでも耐震改修し、家具の固定をすることでできることから始めよう。防災先進国として、国際的に協力を。

大分大学教授 井上 正文氏
大分大学教授 菊池 健児氏
(有)ケイシン設計 山本 伸二氏
大分県建築住宅課 課長 戸高誠一郎氏

大分県土木建築部建築住宅課

確認申請にかかる敷地調査書の 取り扱いについて

標記敷地調査書は確認申請書への添付を要しないこととしたので通知します。

大分県福祉保健部福祉保健企画課

民間公共的施設バリアフリー化 整備推進事業のリーフレットについて

県では、宿泊施設や観光施設等のバリアフリー情報を、ホームページ上で「おおいた・バリアフリーマップ (<http://www.pref.oita.jp/12000/bfmap/>)」として紹介していますが、より一層のバリアフリー化を推進するために、「民間公共的施設バリアフリー化整備推進事業」を昨年度から実施しています。

以下に事業の概要を記します。

1 目 的

民間事業者が行う既存の公共的施設（不特定かつ多数の人が利用する民間施設）におけるバリアフリー化を整備推進する事業に対し、県及び市町村が共同で補助を行うことにより、高齢者、障害者等が地域において安心して社会生活を営むことができる福祉のまちづくりを推進する。

2 実施主体 民間公共的施設所有者

3 補助対象事業

実施主体が行う既存の公共的施設におけるバリアフリー化を推進するための整備事業（ただし、大分市内の施設を除く）

対象施設：宿泊・ショッピング・観光レジャー施設・飲食店を優先

対象工事：玄関等のスロープ設置、玄関自動ドア化、障害者用トイレへの改造等

4 補助金

上記補助対象事業に要する経費に対し、県と市町村が100万円を上限として補助する。

福岡県西方沖地震災害調査報告会について

去る8月10日、県庁正庁ホールにおいて、建築士の日の行事の一環として、福岡県西方沖地震災害調査報告会を開催しました。

当日は建築関係者を中心に、約170名が参加しました。

以下に報告会の概略を示します。

調査報告1

九州大学教授 崎野 健治氏

「地震及び地震被害の概要」

地盤の違いによる地震荷重の差についての考察や、免震構造、耐震診断・改修の普及促進について。

調査報告2

九州大学教授 河野 昭彦氏

「福岡市における建築構造物の地震被害概要」

警固断層に沿った地域を対象に、応急危険度判定の危険度分布や非木造建築物の被害調査統計についての考察。

パネルディスカッション

以下のメンバーにより、「地震後の対応と防災対策について」をテーマに話し合った。

コーディネーター：大分大学助手 黒木 正幸氏
パネラー：九州大学教授 崎野 健治氏
九州大学教授 河野 昭彦氏

行政だより

大分労働局



石綿を含有する在庫品の使用等の停止について

石綿を含有する在庫品については、平成15年11月19日付け基発第1119005号「石綿含有製品の製造等禁止に係る労働安全衛生法施行令の改正について」により、使用している製品中の石綿含有製品の有無を確認し、石綿含有製品を使用している場合は、今後新たに導入する製品については無石綿製品に転換するよう要請していたところです。

施行日前に製造・輸入された製品については、施行日以降も使用等ができることとされていますが、石綿を含有する物の製造等の禁止が、石綿の有する有害性によることに加え、石綿被害が社会的な問題となっている今般の状況を併せて考えると、施行日以前に製造された石綿を含有する在庫品についても、新たな使用等を直ちに停止することが強く求められています。

これらの状況をご理解のうえ、在庫品の新たな使用等を直ちに停止するようお願いいたします。

建築物等の解体等の作業を行うに当たっての石綿ばく露防止対策等の実施内容の掲示について

石綿による健康被害については、石綿を製造、取り扱う作業に従事する労働者はもとより、関係事業場の周辺住民にも不安が生じているところです。

今後、石綿を使用した建築物等の解体等の作業増加が予想される中、石綿のばく露防止対策及び石綿粉じんの飛散防止対策の徹底と周知は、当該作業に従事する労働者はもとより、解体等の作業が行われる現場の周辺住民の不安の解消の観点からも強く求められているところです。

このため、関係事業場の皆様には、周知徹底されるよう特段の御配慮をお願いいたします。

①建築物等の解体等の作業を行うに当たって石綿のばく露防止対策等の実施内容の掲示について

石綿を使用した建築物等の解体等の作業を行うに当たっては、所轄労働基準監督署長に石綿に関する「計

画の届出」・「作業の届出」を行った上で石綿のばく露防止対策及び石綿粉じん飛散防止対策を講じなければならない場合と、当該届出を行うことなく石綿のばく露防止対策等を講じなければならない場合があります。

前者の場合については石綿障害予防規則（平成17年厚生労働省令第21号）に基づく届出が行われていること及び石綿のばく露防止等の実施内容を関係労働者のみならず周辺住民へ周知するために作業現場の見やすい場所に掲示すること。また、後者については石綿のばく露防止対策等の実施内容を同様に掲示すること。

なお、石綿を使用していない建築物等の解体等の作業については、石綿が使用されていないことを同様に掲示すること。

※掲示については様式があります。大分労働局まで問い合わせをお願いします。

② 石綿のばく露防止対策等の確実な実施について

石綿を使用した建築物等の解体等の作業を行うに当たっては、石綿障害予防規則に基づく石綿ばく露防止対策及び石綿粉じんの飛散防止対策の徹底を図ることが必要です。

アスベスト講習会開催のお知らせ

日時：平成17年10月1日（土）13：30～15：00

場所：大分市下郡496-38 大分県教育会館

講師：河上 徹治【(社)日本保温保冷工業会大分支部長】

受講料：無 料

定 員：100名

主 催：(社)大分県建築士会

後 援：NPO法人現代建築技術研究会コラボ・e

C P D：2単位

大分市土木建築部建築指導課

建築物に関する中間検査の再指定について

平成12年5月1日より建築基準法に基づく中間検査制度を5年間の期限で導入し健全な建築物の増進を図ってきました。この度、平成17年4月30日を持ちまして5年間の期限になりますが引き続き中間検査制度を平成22年4月30日まで延長することになりましたので、お知らせします。

新 会 員 紹 介

(H.17年4月～8月入会)

支 部	氏 名	勤 務 先 (所在地)	電 話
国 東	山本金治郎	ヤマモト建築設計事務所 (自営) 東国東郡国東町赤松3078	(0978) 72-3040
国 東	大末 政男	大末建設 東国東郡国見町大字中1327	(0978) 82-1217
別 府	篠原 昭弘	ダイエーコンサルタント(株) 宇佐市大字森山1813-5	(0978) 32-0584
別 府	山下 公愛	(株)後藤工務店 別府市光町7番26号	(0977) 21-5355
別 府	岸本 真也	岸本工務店 別府市石垣東6-5-25	(0977) 24-1591
大 分	高松 隆太	(株)大分住宅研究室 大分市錦町3-8-1	(097) 532-1885
大 分	林 文義	アルテス一級建築士事務所 大分市大字宮崎スカワ416番地 クマダ大分ビル5F	(097) 568-6345
大 分	中谷 宏史	九州電力(株) 大分支店 大分市金池町2-3-4	(097) 536-4130
大 分	高原 明宏	高原設計 大分市尼ヶ瀬4組	(097) 544-3217
大 分	篠田 浩利	(株)竹内工務店 大分市舞鶴町1-12-19	(097) 536-2323
大 分	高瀬 一郎	ナカノス建設工業(株) 大分市大字一の洲3-6	(097) 521-5666
大 分	吉松 逸生	(株)ベネックホーム 大分市舞鶴町2-1-2	(097) 537-8055
大 分	一野典比己	(株)ベネックホーム 大分市舞鶴町2-1-2	(097) 537-8055
大 分	首藤泰比古	アトリエ古松堂一級建築士事務所 大分市永興10組	(097) 514-1335
臼 杵	門根 聡	(株)だるまや水道 臼杵市大字前田1988-1	(0972) 63-4141
佐 伯	佐藤 育男	サト一級建築士事務所 佐伯市常磐東町1726番地	(0972) 23-4155
玖 珠	森 日出海	(有)森建築 玖珠郡九重町菅原412-1	(0973) 78-8346
日 田	宇野 隆之	住まいる工務 日田市上城内町7-60	(0973) 24-2891
日 田	黒木 仁八	(株)今井工務店 日田市石松町2892	(0973) 24-6565
日 田	重石 光義	シゲイシ建築事務所 日田市田島2丁目1-10	(0973) 24-2857
中 津	岩尾 雅広	中津市役所 中津市豊田町14番地の3	(0979) 22-1111

平成17年度 通常総会報告

5月31日（火）13時30分より、大分文化会館において平成17年度通常総会が開催され、平成16年度事業報告・収支決算報告、平成17年度事業計画・収支予算が満場一致で可決されました。又、任期満了に伴い役員の変更が行われましたので、以下のとおりご報告いたします。

1. 平成16年度事業報告書（略）

2. 平成16年度収支決算書

◎収支決算書

自：平成16年4月1日 至：平成17年3月31日

(1) 収入の部（単位：円）

勘定科目	予算額	決算額
会費収入	20,182,000	18,194,200
事業収入	3,396,050	3,780,210
補助金交付金収入	350,000	350,000
雑収入	9,336,000	12,873,057
繰越金	1,483,724	1,483,724
収入合計(A)	34,747,774	36,681,191

(2) 支出の部（単位：円）

勘定科目	予算額	決算額
管理費	15,460,000	14,803,814
事業費	17,499,000	16,940,136
予備費	1,788,774	0
支出合計(B)	34,747,774	31,743,950
次期繰越収支差額(A-B)		4,937,241

◎貸借対照表（略）

◎財産目録 平成17年3月31日現在

(1) 資産の部

1. 流動資産		51,658,286	
普通預金	大分銀行	25,233,960	
現金		17,660	
定期預金	中央三井信託銀行	10,000,000	
定期預金	みらい信用金庫	8,406,666	
定期預金	豊和銀行	8,000,000	
2. 固定資産		600,000	
敷金	田原ビル	600,000	
資産合計(C)		52,258,286	

(2) 負債の部

I 流動負債		322,133
1. 預り金（敷金・所得税）	222,133	
2. 未払金	0	
3. 災害引当金	100,000	
II 固定負債		0
負債合計(D)		322,133
正味財産合計(C-D)		51,936,153

◎剰余金処分

本年度剰余金 4,937,241円

これを次のように処分する。

会館建設基金 0円

次年度繰越剰余金 4,937,241円

以上のとおりである。

平成17年5月31日

社団法人 大分建築士会

会長 岩瀬 八洲夫

3. 監査報告書

平成16年度決算書（収支計算書・貸借対照表・財産目録）及び会計諸帳簿、関係書類等の監査を実施致しましたが、正確かつ適正であることを認めます。

平成17年4月27日

監事 戸高誠一郎

監事 田金 孝昭

監事 佐藤 周太

4. 平成17年度事業計画書（案）

1. 組織の活性化及び資質の向上

(1) 建築士会会員の増強及び組織の強化推進

(2) 「建築士大分」の発行

(3) 建築士会連合会発行の「建築士」の配布

(4) 建築関係図書の紹介、斡旋並びに頒布

(5) 建築士会全国大会出席

・6月10日（金）～11日（土）

第48回建築士会全国大会愛知大会

（於：愛知県）

(6) 「建築士の日」事業

(7) まちづくりに関する事業等

・まちづくり推進協議会の活動

- (8) 青年・女性建築士活動の推進
- ・ブロック青年建築士協議会・女性建築士協議会出席
 - ・全国青年委員長会議・全国女性建築士連絡協議会出席
 - ・9月3日(土)「建築士の集い」宮崎大会の実施
 - ・3月4日(土)研究集会
「パッションin鹿児島」の実施
 - ・サマーセミナーの実施
10月22日(土)(於:国東町)
- (9) 継続能力開発(CPD)制度・専攻建築士制度の推進

2. 諸会議の開催、出席

- (1) 総会、役員会、各委員会の開催
- (2) 支部長・理事合同協議会の開催
- (3) 常設委員会、特別委員会の開催
- (4) 青年部総会、役員会、女性部会の開催
- (5) 連合会会議、ブロック会会議出席
- (6) 本・支部職員研修会の開催

3. 建築士の教育

- (1) 国土交通大臣・大分県知事指定
「建築士のための指定講習会」の実施
・講習会受講の徹底推進
- (2) 国土交通大臣・大分県知事指定特別講習会の実施
- (3) 研修会、建築士研究集会の開催
- (4) 建築見学会の実施
- (5) 連合会、ブロック会主催の講習会・研修会出席

4. 建築行政及び関係団体への協力

- (1) 違反建築防止週間への協力
- (2) 建築防災週間への協力
- (3) 大分県建築物総合防災対策推進協議会への協力
- (4) 大分県木造住宅等推進協議会への協力

5. 受託事業

- (1) 一級、二級・木造建築士試験実施業務
・受験申込書の受理及び審査
- (2) インテリアプランナー受験申込書の頒布等
- (3) 昇降機等定期検査報告事務

6. 福利厚生事業

- (1)「住宅検査・保証制度」の加入促進
- (2) グループ保険、共済補償制度の普及、加入推進

7. 表彰

- (1) 建築士会への功績者表彰及び感謝状の贈呈
- (2) 国及び地方公共団体の表彰該当者の推薦

8. 平成17年度収支予算書

自：平成17年4月1日
至：平成18年3月31日

(1) 収入の部

勘定科目	前年度決算額	本年度予算額
会費収入	18,194,200	19,219,600
事業収入	3,780,210	2,412,850
補助金交付金収入	350,000	300,000
雑収入	12,873,057	10,221,200
繰越金	1,483,724	4,937,241
収入合計	36,681,191	37,090,891

(2) 支出の部

勘定科目	前年度決算額	本年度予算額
管理費	14,803,814	17,370,000
事業費	16,940,136	18,332,480
予備費	0	1,388,411
支出合計(B)	31,743,950	37,090,891

※平成17年度新役員は次ページに掲載しています。

編集委員会では みなさんの投稿を待っています。

絵・スケッチ・CG・詩・短歌・俳句・随想なんでも結構です。あなたの知られざる才や技を御披露いただきたいのです。

各支部の編集委員までおとどけください。本部に直接送ってくださってもかまいません。よろしくお願い致します。

平成17年度 新役員名簿

役 職	所属支部	氏 名	備 考
会 長	大 分	岩 瀬 八洲夫	
副会長	大 分	芳 山 憲 祐	
〃	〃	井 上 正 文	
〃	佐 伯	志 賀 隆 保	
〃	中 津	瀬 口 雅 之	
常務理事	大 分	幸 孝 三	
〃	〃	池 邊 健太郎	
〃	〃	石 井 鏡 成	
理 事	高 田	安 部 一 夫	(支 部 長)
〃	〃	後 藤 憲 二	(青年部会長)
〃	国 東	松 広 勝 義	(支 部 長)
〃	別 府	幸 勝 美	(支 部 長)
〃	〃	原 精一郎	
〃	〃	浅 野 健 治	
〃	大 分	中 村 友 一	
〃	〃	沖 本 進	
〃	〃	阿 部 文 昌	
〃	〃	亀 谷 芳 久	
〃	〃	山 本 哲	
〃	〃	宮 崎 隆 博	
〃	〃	児 島 亨	
〃	〃	末 成 祐 二	
〃	〃	穴 井 輔 嘉	
〃	〃	佐 藤 富士雄	
〃	〃	大 塚 文 美	(支 部 長)
〃	佐賀関	嵯 峨 雄 二	(支 部 長)
〃	臼 杵	三重野 元 良	(支 部 長)
〃	〃	板 井 登喜雄	
〃	津久見	濱 野 一 明	(支 部 長)
〃	佐 伯	井 上 一 則	(支 部 長)
〃	〃	風 戸 彰	
〃	三 重	岡 部 達 巳	(支 部 長)
〃	竹 田	川 野 和 男	(支 部 長)
〃	玖 珠	穴 井 和 興	(支 部 長)
〃	日 田	藤 原 秀 樹	(支 部 長)
〃	〃	養 父 信 義	
〃	〃	日 高 淳 一	
〃	中 津	梶 田 康 男	(支 部 長)
〃	〃	三 雲 金 吉	
〃	宇 佐	木 下 日出男	(支 部 長)
〃	〃	身 深 文 廣	
監 事	大 分	田 金 孝 昭	
〃	〃	豊 島 範 幸	
〃	〃	佐 藤 周 太	



事務局だより

【行事報告】

■第48回建築士会全国大会（愛知大会）

日時 平成17年6月10日
場所 愛知県名古屋市
参加 55名

【会議報告】

■役員会

日時 平成17年4月7日
場所 事務局
出席 6名

■青年部長・副部長会議

日時 平成17年4月23日
場所 コンパルホール
出席 12名
概要 1) 全国青年委員長会議報告
2) パッションinおきなわ報告
3) 次期役員選出について
4) 17年度青年部会行事日程について

■会計監査

日時 平成17年4月27日
場所 事務局
出席 1名

■第1回三役会議

日時 平成17年4月27日
場所 事務局
出席 9名
概要 第1回理事会の議題について

■第1回理事会

日時 平成17年5月17日
場所 コンパルホール
出席 30名
概要 1) 16年度事業報告及び収支決算報告
2) 17年度事業計画（案）及び収支予算（案）について
3) 任期満了に伴う役員改選について

- 4) CPD・専攻建築士登録状況について
- 5) その他

■平成17年度通常総会

日時 平成17年5月31日
場所 大分文化会館 第1小ホール
出席 出席者91名、委任状415名 計506名

■評議員会

日時 平成17年5月31日
場所 大分文化会館 第2会議室
出席 45名
概要 役員（理事・監事）の選任について

■第2回理事会

日時 平成17年5月31日
場所 大分文化会館 第2会議室
出席 37名
概要 役員（三役）の選任について

■第2回三役会議

日時 平成17年6月14日
場所 事務局
出席 9名
概要 第3回理事会の議題について

■第3回理事会

日時 平成17年7月15日
場所 大分第一ホテル
出席 理事37名、女性部会長1名 計38名
概要 1) 常設委員会・特別委員会委員の選任について
2) 顧問・相談役の委嘱について
3) 青年部会・女性部会新役員の紹介
4) その他

■広報委員会

日時 平成17年7月27日
場所 コンパルホール
出席 広報委員12名、ホームページ委員2名 計14名
概要 1) 委員長・副委員長の選出について
2) 会誌「建築士大分」発行の編集方針について
3) その他…ホームページ委員より提案事項

■広報委員・編集委員合同会議

日時 平成17年7月27日
場所 コンパルホール

出席 広報委員11名、編集委員12名 計23名
概要 1) 編集委員会委員長・副委員長の選出について
2) 会誌「建築士大分」発行・編集について

3) 専攻建築士制度について
4) 第48回全国大会（愛知大会）について
5) 免許登録事務、行政委託事業並びに応急判定活動に関する協定等について 他

■事業委員会

日時 平成17年8月1日
場所 事務局
出席 10名
概要 1) 委員長・副委員長の選出について
2) 17年度事業計画について

■第426回定例理事会・士会長合同会議

日時 平成17年5月25日
場所 東京都
出席 岩瀬会長
概要 1) 専攻建築士制度について
2) 本会の「個人情報管理規定」(案)について
3) 平成16年度補正予算について
4) 平成16年度事業報告及び収支予算について
5) 平成17年度事業計画（案）及び収支予算（案）について 他

■調査研究委員会

日時 平成17年8月9日
場所 事務局
出席 委員7名、女性部会長1名 計8名
概要 1) 委員長・副委員長の選出について
2) 17年度事業計画について

■編集作業

日時 平成17年8月17日
場所 事務局
出席 3名
概要 「建築士大分」No.94の編集作業

【九州ブロック関係】

■九州ブロック会総会

日時 平成17年6月17日
場所 別府市
出席 岩瀬会長、芳山副会長、後藤青年部会長、阿南女性部会長、許斐事務局長 他2名
概要 1) 16年度事業報告及び収支決算報告
2) 監査報告
3) 17年度事業計画（案）及び収支予算（案）について
4) 連合会報告・連絡事項 他

■青年部長・副部長会議

日時 平成17年8月20日
場所 コンパルホール
出席 17名
概要 1) 各支部活動報告
2) 「建築士の集い」宮崎大会について
3) サマーセミナー開催について

■第1回青年建築士協議会役員会及び

女性建築士協議会役員会
日時 平成17年7月9日
場所 福岡市
出席 渡邊青年部相談役、後藤青年部会長、阿南女性部会長、大西女性委員
概要 1) パッションinおきなわ大会の収支報告
2) 「建築士の集い」宮崎大会について
3) パッションin鹿児島大会について
4) 会長会議の報告について

■CPD・専攻建築士制度特別委員会

日時 平成17年8月29日
場所 事務局
出席 10名
概要 1) 役員の選出について
2) 17年度事業計画について

【建築士会連合会関係】

■第45回都道府県建築士会職員会議

日時 平成17年4月1日
場所 東京都
出席 大塚理事、川村
概要 1) 個人情報保護法の対応について
2) 継続能力開発（CPD）制度について

■事務局長会議・事務局職員研修会

日時 平成17年8月5日
場所 長崎市
出席 岩瀬会長、川村、岡部
概要 1) 連合会より報告事項
2) 各県提出議題協議

前報を待っています
TK



名前は長くて
ども作業は少数。
頑張りました。

広報委員

担当副会長	〈佐伯〉	志賀	隆保
常務理事	〈大分〉	幸孝	三
委員	〈大分〉	佐藤	富士雄
〃	〈大分〉	笠木	忠昭
〃	〈大分〉	宮崎	隆博
〃	〈別府〉	原	精一郎
〃	〈臼杵〉	板井	登喜雄
〃	〈佐伯〉	井上	一則
〃	〈三重〉	岡部	達巳
〃	〈竹田〉	川野	和男
〃	〈日田〉	日高	淳一
〃	〈中津〉	三雲	金吉

編集委員

編集委員	〈高田〉	成重	憲一
〃	〈国東〉	菊本	軍治
〃	〈別府〉	岡田	宏基
〃	〈大分〉	笠木	忠昭
〃	〈大分〉	山田	由二
〃	〈大分〉	佐藤	安典
〃	〈大分〉	坪井	敬行
〃	〈大分〉	飯倉	尚之
〃	〈大分〉	山	鮎美
〃	〈佐賀県〉	川口	尚文
〃	〈臼杵〉	赤嶺	竜一
〃	〈津久見〉	竹田	光徳
〃	〈佐伯〉	安部	秀久
〃	〈佐伯〉	中田	智佐美
〃	〈三重〉	後藤	康仁
〃	〈竹田〉	野村	忠司
〃	〈玖珠〉	佐藤	誠夫
〃	〈日田〉	秋	和治
〃	〈中津〉	山	増彦
〃	〈宇佐〉	奥	田和

建築士大分

2005.9 No. 94

(非売品)

平成17年 8月30日 印刷

平成17年 9月 1日 発行

編集/発行所
社団法人

大分県建築士会
〒870-0022

大分市大手町2丁目2-7田原ビル2F

TEL 097-532-6607

FAX 097-532-6635

印刷所/いづみ印刷株式会社

大分市大字下郡字丁畑3119-1 TEL (097) 569-3741

豊 築 士

お び ち

本・支部名	〒	事務局所在地	TEL
高 田	879-0605	豊後高田市御玉199	0978-24-0418
国 東	873-0503	東国東郡国東町安国寺718	0978-72-2887
別 府	874-0845	別府市大字鶴見字角田3220-3 別府建築士事務所会館	0977-67-4488
本部・大分	870-0022	大分市大手町2-2-7 田原ビル2F	097-532-6607
佐賀関	879-2201	大分市大字関3068 高島建設(株)内	097-575-0116
臼 杵	875-0082	臼杵市稲田中尾下1000-1 (有)みえのブロック内	0972-63-6695
津久見	879-2458	津久見市入船西町21-1 小代築炉工業(株)内	0972-82-4155
佐 伯	876-0813	佐伯市長島町1-3-11	0972-23-6099
三 重	879-7131	豊後大野市三重町市場701-5 ウィリングリービル	0974-22-6606
竹 田	878-0026	竹田市大字飛田川1618-6	0974-62-3711
玖 珠	879-4331	玖珠郡玖珠町大字戸畑3466-1 高倉ホーム内	0973-73-7436
日 田	877-0025	日田市田島1-7-43-1F 102 (有)藤原設計内	0973-24-6022
中 津	871-0024	中津市中央町1-5-24 中津建築会館	0979-24-3597
宇 佐	879-0454	宇佐市大字法鏡寺290-1 服部第3ビル102号	0978-33-3395
本 部	http://www.oita-shikai.or.jp/		
別 府 支 部	http://www.beppu-yukemuri.com		
大 分 支 部	http://homepage2.nifty.com/k-shikai-oita/oitasibu/		
佐 賀 関 支 部	http://www.d-b.ne.jp/sekisibu/		
臼 杵 支 部	http://www.bungo.or.jp/usk_shikai/syukai.htm		
津 久 見 支 部	http://www.bungo.or.jp/t-shikai/		
佐 伯 支 部	http://www.geocities.jp/o_s_kentikusi/		
三 重 支 部	http://www16.plala.or.jp/sok-mie/		
竹 田 支 部	http://ww61.tiki.ne.jp/kentikusi-ta/index.htm		
日 田 支 部	http://www.d-b.ne.jp/ken-hita/index.htm		
中 津 支 部	http://www6.ocn.ne.jp/ken-kai/shikai/01top/index.htm		
宇 佐 支 部	http://www.d-b.ne.jp/usasikai/		

会 員 増 強 に ご 協 力 を !

~会員二人で、一人の入会勧誘を~
目標3,000人突破



社団法人 大分県建築士会